

明治四十五年

(二月)

一月一日 丙子 月曜 晴。四方拝。天照皇大神宮社前に整列して君か代を唱ふ。
朝六時起。天神地神を拝み、祖先を拝み、七時、挙家打揃、寄宿舎ニ集る。一同神前を拝
拝、食堂にて椒酒雑煮を祝ふ。校長はしめ越年者八名、事務所一同祝。畢而新年帖を出し
て一同不残試筆する。是を礼となす。それより一同氷川神社に詣て而帰。午餐後、来客、
津田弘視、富永発叔。

昨冬三十一日より一月一日にかけ、電車同盟罷行。

受信 御寺御所より縁豆着。

発信 端書十四枚

*拝拝(衍) *同盟罷行(同盟罷業) *縁豆(豌豆)

一月二日 丁丑 火曜 晴。風。33(度)。

朝七時起。八時、食堂にて雑煮を祝ふ。泰夫婦、銚子二行。予、十時より年礼二閑院宮様
ニ詣し、御息所様御はしめ御一統様ニ拝謁。御祝酒等いたゝきて、夫より三条様二年始申
上ル。御食堂にて、治君様、御所様御夫婦、河はたさまと御祝酒、午餐をいたゝきて去る。
九条様ニ参り、恵子様、御子さまかたにも御目にかゝりて、同じく御祝酒等いたゝき、暫
御咄しゝて退き、北白川宮様え参り、富君様と御咄し申上、御祝酒もいたゝきて去る。夕
景帰宅す。夜十一時頃、近火。随分火勢俄急にして、其内ポンプ来りて、やかて沈火す。

*河はたさま(河鱸さま) *ポンプ(ポンプ) *沈火す(鎮火す)

一月三日 戊寅 水曜 晴。33(度)。

朝八時、食堂にて一同雑煮を祝ふ。来客、長尾夫婦、安部氏。予、午後早々年礼二行。秋
元子、戸田伯、大谷伯、岩倉公、東伏見宮え参り、御息所拝謁、種々御咄し申上、御酒肴
いたゝきて、夫より中山侯、中山栄子様え参り、暫時にして、松尾男を訪ふ。主夫婦、御
家内と種々御語り合て帰る。帰途、姉小路え寄、已而帰。姉伯、北村、外にも。

受信 神津氏より、ばた着。

*ばた(バター)

一月四日 己卯 木曜 晴。

在宅、礼を受ける。

訃音、東久世伯薨去。七日午前十時半、芝増上寺にて。

一月五日 庚辰 金曜 晴。

朝より年礼に廻る。島田三郎氏、米国より帰朝二付、夕六時、新橋へ行、予、李子と。愈、新橋着にて御無事之顔を見て大安心。それよりかねて約束なる石山基威氏に招かる。もと陽さまも御出にて面白く、八時過帰。

*もと陽さま(基陽さま)

一月六日 辛巳 土曜 晴。
在宅。

訃音、岩佐純薨去、十日午後〇時半、青山斎場にて。

一月七日 壬午 日曜 晴。

観世会二行、予、靖子、早苗を拉して。終日能楽をみて帰。

一月八日 癸未 月曜 晴。

本日午下一時より始業式。第一、君か代唱歌。校長、勅語拝読。生徒、一、二、三、四、五年、唱歌。島田三郎氏講演ありて、生徒一同遊戯。畢、福引。生徒欠席なし。実に本年の発会の盛なる、珍らしとも珍らし。

一月九日 甲申 火曜 晴。

課業如例。午下早々、大谷伯素謡会に参集す。九条公、徳川公をはしめ大勢さまにて、素謡五番、其外大小鼓、仕舞沢山。畢而福引の余興、食事中面白く、九時過帰。

一月十日 乙酉 水曜 晴。45(度)。

課業如例。午下、津田氏え年礼に行て帰。岩佐男葬送、代理者木村。

一月十一日 丙戌 木曜 晴。45(度)。

課業例の如し。李子、八時半汽車にて佐倉へ行。堀田伯一周忌祭典。予、在宅。此夜霊夢をみる。他日其兆有へし。

一月十二日 丁亥 金曜 晴。

午下二時より海事協会二行。新年互礼会。余興、浪花節二席、畢而福引等あり、會事中。六時帰。

*會事(食事)

一月十三日 戊子 土曜 晴。

朝、倫理畢る。午下、愛国婦人会新年互礼会。総裁殿下、御風気にて、東伏見宮妃殿下成らせられる。余興、細川風谷講談ありて後、食堂二付く。福引も済て四時帰。有地捨子に

引かれて戊申倶楽部に始て出席す。又、細川風谷の講談ありて五時帰。

一月十四日 己丑 日曜 晴。

午下より平川町高倉典侍さま御病氣御見舞に参る。盲腸炎のよし。少し御快よき御模様に向はせられる。石山氏え年始に行。謡二番うたふて帰。

*平川町(平河町)

一月十五日 庚寅 月曜 晴。

課業畢る。午下、宮城姉小路局え参る。ゆるく御話し申上、汲泉献上する。五時帰。

一月十六日 辛卯 火曜 晴。

朝、三殿下成らせられる。御稽古申上る。

一月十七日 壬辰 水曜 晴。

課業例の如し。午下三時より、予、正子、寿、みさをと本郷座に行。十時帰。

一月十八日 癸巳 木曜 国技館行。

課業例の如し。星野花子より招待にて国技館二行。予、李子と星野錫細君花子とにて、始て相摸をみる。前日より西方劣たるよし聞て、予ハ西方ニ大ぬに力を入れる。小常陸の奇麗なる勝にて銀杯の賞を受る。大に西方色めき渡りて心地よし。終に常陸山、玉椿勝負なし、分となる。始て相摸をみて大ぬに悟道したり。八時過帰。

*相摸(相撲) *相摸(相撲)

一月十九日 甲午 金曜 堀田伯、紅葉館にて披露会。

朝より校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。午下四時より堀田伯結婚披露会、芝紅葉館二行、予、李子と。御客大勢にて御盛会也。十一時帰。

一月二十日 乙未 土曜 晴。

泉会新年会ニ付休業す。午下一時より続々會員集る。裁縫教場にて、予、本日開会の挨拶。済て細川風谷氏講談二席。此間、茶菓、甘酒、一同に出す。五年生の四季の月扇舞、遊戯ありて、福引凱戦福引。式場に、老男女ほうきを持て松葉かきをして居ると、桃太郎、雉子、猿、犬なぞ連て、姥車十台を引て来る。車に福引の景品を入れて、一より廿と云、廿品ツ、よみ出し、福引する。百七十品位。畢而塾食堂、満場飾をなし、トソ酒、雑煮、折詰、赤飯あたゝかく、菓子折、一同賑々敷おもしろく盛食也。六時全畢。

*凱戦(凱旋) *ほうき(箒) *姥車(乳母車) *トソ酒(屠蘇酒)

一月二十一日 丙申 日曜 晴。 九条公爵邸行。

午下二時より九条公爵邸に参る。例年道実公御誕辰之御祝日にて、御客、山科宮、姫宮も成らせられ、鷹司、二条、佐竹、御親戚御子さまかた大勢さまにて、余興数番、福引等にて御賑々敷、食堂御洋食。済、九時帰。夜九時、帰宅。時、はしめて雨ふり出したり。

*山科宮(山階宮)

一月二十二日 丁酉 月曜 晴。

朝、課業畢る。千久子十五年祭二付、朝、墓参して帰。午下一時、案内にて氷川神社宮司毛利氏来て、祭典執行す。姉小路公政卿、良子代理せん女。新田妻、玉枝代理絹江、予始め、鶴子、栄子、津田弘視、其外子供不残、玉串を捧る。神前にて三時より食事、夕餐をも済。万里伯も拝せられる。夜八時、全畢。

受信 朝、房州よりあじの干物着。

*あじ(鱆)

一月二十三日 戊戌 火曜 晴。

三殿下成らせられる。

一月二十四日 己亥 水曜 晴。

課業例の如し。文部省、東京府庁より視学官来り、学校すへてを見て帰。三時より予、鶴子、正子と帝劇に行、観劇す。夜十時半帰。訃音、奥村八重子死去。

一月二十五日 庚子 木曜 晴。 午下一時より毛利邸行。

課業例の如し。午下一時より毛利公爵邸に参る。海事協会相談会二付、安子様、鍋島夫人、有地品之允夫婦、山田氏、其外十人計にて慈善会協議す。五時、済て帰。

*協議(協議)

一月二十六日 辛丑 金曜 雨。

朝六時起。鶴子、七時出発。正子、新橋迄送る。校外稽古日、長谷川、河村、角田、午下三殿下成らせられる。朝、雪ちらつきて、後雨になる。珍らしきよき雨也。夜に入ても尚雨やまず。膏雨有かたし。

*よき雨(良き雨)

一月二十七日 壬寅 土曜 晴。

朝、倫理聞く。終日、揮毫ものです。所々え小包にて出す。

一月二十八日 癸卯 日曜 晴。 安田善八郎の招にて歌婦妓行。
午前十時より、予、李子と歌舞妓劇に行。安田善八郎氏招待、安田氏夫婦、いとみ夫婦、
子たちにて、演劇、実に面白く見物したり。夜十一時過帰。

*歌婦妓(歌舞妓)

一月二十九日 甲辰 月曜 晴。

課業例の如し。

一月三十日 乙巳 火曜 孝明天皇祭。晴。

予、正子と同じく、朝十一時頃より代々木大炊御門氏二年礼二行。家政さま、御猟兔狩二
二時出立。石山子ニも行。夕飯に逢而帰。本日大草恵実師死去のよし、新聞ニ出る。

*大草恵実師(大草慧実)

一月三十一日 丙午 水曜 晴。

課業例の如し。午下五時より安田輝子、予、李子、ほの、本郷座二行。雲右衛門浪花節始
めて聴く。十時帰。

(二月)

二月一日 丁未 木曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

二月二日 戊申 金曜 雨。

朝、三殿下成らせられ、御稽古申上る。午下、浅草本願寺輪番大草恵実逝去ニ付、悔みニ
行。観世音え参詣して帰。

*大草恵実(大草慧実)

二月三日 己酉 土曜 雨。雨、夜雪、已而又雨。

在宅。揮毫ものす。

二月四日 庚戌 日曜 晴。

終日揮毫。午下三時より、予、桃子と同じく帝劇見物する。森律子より招待也。夜十一時
帰。

二月五日 辛亥 月曜 晴。

課業例の如し。来客、原田二郎、鴻池善右衛門、藤田善三郎、原氏との寄附金持参。海事協会慈善演劇二付、切符三十枚託せらる。

*藤田善三郎(藤田伝三郎)

二月六日 壬子 火曜 陰。45(度)。

三殿下成らせられる。御稽古申上る。生花飾付、題字、題画揮毫す。

二月七日 癸丑 水曜 晴。又(以下、記述ナシ)

課業例の如し。本日より試験、画手本出す。来客、片岡久太郎。岡崎子病氣見舞二行て帰。受信 神代より生八橋着。

二月八日 甲寅 木曜 晴。

課業例の如し。来客、閑院宮御使伊藤たね。毛利安子さま御電話にて、十日午前出向る事。

二月九日 乙卯 金曜 晴。

校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。来客、三宅花園。

発信 播州島津え、岡山跡見え、越中関一郎え、小包もの出す。芸州波多野え小包もの。

二月十日 丙辰 土曜 午前十時、毛利公行。午下五時より華族会館行。

朝十時より毛利公爵邸二行。安子様本年古稀に成らせられ候二付、記念帛紗之御相談ニ相成。御昼餐を共にして種々御語り合、安子様御幼年御画も修められたりとて、御八歳之比の画を御見せに相成。二時過、去りて、宮島盛子を訪ふ折し、久子、糸子居合せ、大に悦ひ、三時頃迄。夫より高倉様御病氣伺ひ、先々御全快も御同様位にて、御元氣さまにてゆるく御咄し申上、四時、去りて石山氏を訪ふ。五時より華族館二行、和慰会員、大て集られ、十八人も。やかて食堂開かれ、当日ハ裏松友光、正親町男の幹事にて趣向あり。食堂に飾りたる盆栽、福引ありて後、別席にて廻り芸にて面白く、十時過畢、李子と電車ニて帰。

*大て(大抵)

二月十一日 丁巳 日曜 紀元節。晴。56(度)。

朝より揮毫ものす。十時過、木村氏来、内より電話にて華族女学校大火、閑院宮様ハ御あむなひと云。直に木村を使に出しやりて、二階よりみれ(ば)、また煙盛に見えたり。午下四時より、予、御見舞に参る。宮殿下に拝謁して火事の模様を仰聞けられ、すぐ御書齋まのあたりにて御炎き位也と。風上にて先々御助かり也。それより岩倉具綱さま御見舞申上て、石山氏え行、夕飯に逢てゆるく帰る。

*あむなひ(危なひ) *御炎(ママ)き *まのあたり(目のあたり)

二月十二日 戊午 月曜 晴。
課業例の如し。

二月十三日 己未 火曜 晴。43(度)。
朝、三殿下成らせられ、御稽古申上る。寒気甚し。午下、棚橋絢子の病を問ふ。もはや全
快に近し。暫く談話して帰。

二月十四日 庚申 水曜
課業例の如し。

二月十五日 辛酉 木曜 雨。
課業例の如し。清水連郎より姉小路表札之紙来る。

二月十六日 壬戌 金曜 小雨。
昨夜、区長より学校歴暦、校長之履歴等申来、今朝さし出す。毛利公より御使来、依頼画
渡す。校外生及三殿下成らせられる。姉小路良子表札、清水出す。

*歴暦(履歴) *履歴(履歴)

二月十七日 癸亥 土曜 晴。

朝十時より、予、李子と同じく歌舞妓に行。十一時開場、義勇艦隊慈善演劇初日惣見物二
行。盛況也。十一時帰。来客、石山すまま、伴子。

*石山すまま(石山すま子)

二月十八日 甲子 日曜 旧元日。晴。

朝より揮毫ものす。来客、烏丸操子、高津もと子。安田輝子紹介にて、玄関番やとひ入る、
田島四郎。寄宿舎え奥たかをやとひ入る。

*やとひ入る(雇ひ入る) *やとひ入る(雇ひ入る)

二月十九日 乙丑 月曜 晴。

課業例の如し。来客、日比野雷風、少女画報高橋氏、津田栄子精と。午下、墓参して帰。

二月二十日 丙寅 火曜 晴。

朝、三殿下成らせられる。

二月二十一日 丁卯 水曜 晴。

課業例の如し。正子、基威、歌舞妓二行。来客、森芳五郎、面会して大ニ困る。

二月二十二日 戊辰 木曜 晴雨不定。風有。63(度)。

課業例の如し。本日は横浜へ行つもあり、天気あしくて不出。揮毫ものす。夜、みさを、井深氏。来客、時事新報記者辻重郎。

二月二十三日 己巳 金曜 晴。

校外稽古日。

二月二十四日 庚午 土曜 晴。

朝、予、石山氏と横浜二行。朝十時汽車、横浜より電車本牧行に乗て、はしめてこの電車に乗て、本牧着。散歩によろし。道すから茶や料理店などにて驚くへく賑はし。原氏え着。着の青木氏死去の御悔み申す。富太郎氏ハみのえ旅行中也。やかて昼餐二逢て後庭園散歩、当年ハ昨年のあらしにて、かの幾百株の梅尽くかれたし。古木、老木の雅々たる枝ぶり惜みても尚惜し。漸二、三株は盛なるあり。上の新築、ほゞ出来なり。庭見る人々の多きに驚くへし。原一家の為に電車も出来て、諸方より公園の如く人来る。記念節などは二万人と云。四時、馬車にて送られ、無事帰りぬ。途中、大森辺、梅花見えず。

*着の(美濃) *みの(美濃) *かれたし(かれたり) *記念節(紀元節)

二月二十五日 辛未 日曜 晴。佐倉堀田家行、八時半汽車にて。

天晴朗。予、李子と同じく朝七時出門、両国八時半発車。時、万里、酒井両伯、加茂富子、かつ子、裏松良友と共に、十時半佐倉着。堀田家より迎車にて十一時着。御挙家御案内にて、御庭園二遊会。宏大なる庭園一巡散歩して梅林に入る。梅咲初たる、七、八分のと、未だ咲初ぬもの、馥郁たる梅幾百株、種類も幾株か。梅林に天との設備、又外ニ休所所々にあり。容易ならざる御設にて、昼御弁当、其外御珍らしきもの共饗応あり。昼畢而、広き御庭に御遊ひの御もうけ器冥等ありて、其遊ひに余念なし。御八ツの御でん等にて、御茶席にて伴に様御手前中、雪を弾く静雅の趣味、是か禅茶か。外人ハしらぬ遊戯の盛なるに、四時の汽車には間に合ぬ、六時十六分と定めて、また遊ぶ。夕陽の庭の景色、得も云はれぬ、惜き名残を御暇申て、一同車にて佐倉駅より又発車、八時両国着。一同御別れ申て酒井氏の馬車にて帰りぬ。よひ月も清くて、楽しき一日をくらしぬ。

*天と(テント) *器冥(器具) *伴に様(伴子様) *よひ月(宵月)

二月二十六日 壬申 月曜 晴。

課業例の如し。

二月二十七日 癸酉 火曜 雨。

朝八時出立、泰、小林氏と京都に。朝、三殿下成らせられる。正子、演劇に行く。十一時帰。

受信 訃音、小原玉子廿一日死去。木津跡見より夜八時着。

発信 大宮岡村え。

二月二十八日 甲戌 水曜 雨。66 (度)。

課業例の如し。

発信 対州鶏知小原伝え弔詞。

二月二十九日 乙亥 木曜 雨。58 (度)。

課業例の如し。毛利様御使長井時彦。雛祭する。

発信 美濃青木氏え弔詞、及香料五円出す。

(三月)

三月一日 丙子 金曜 雨。

朝五時起。散歩之はづ、雨にて写経す。校外生、午下、三殿下成らせられる。

三月二日 丁丑 土曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、新田きく子。雛祭する。津田たか、稲吉、末、内の子供三人と石山、北村にて雛の馳走にて賑々敷遊ぶ。来客、報知社宇高浩、雛のはなしする。

訃音、高崎正風墓去。三日葬儀。

発信 大坂木津跡見え。九条中島え。

三月三日 戊寅 日曜 陰。午下、雨になり。

予、正子と石山すま子を誘ふて観世会二行。邯鄲谷村、小袖曾我 片山、観世清久、雲雀山山科、現世七面 橋岡、夜討曾我 片山、清久。面白く出来たり。

*山科(山階) *現世七面(現在七面)

三月四日 己卯 月曜 雨。昨夜、雨ふり通し。

課業例の如し。寿子、発熱九度五部、朝より臥。

受信 夜八時、木津跡見より書至。

*九度五部(九度五分)

三月五日 庚辰 火曜 晴。 帝国ホテルえ午下二時より。

三殿下成らせられる。午下二時より予、李子と同しく東洋婦人会催しにて帝国ホテルに行。會長鍋島栄子様、毛利様御不参。肝付氏、本日ハ外務大臣夫婦と小笠原伯御夫婦渡米二付、送別を兼たる会合にて余興もあり、外に支那談も有はつながら、議會之都合にて此人も不参にて、四時頃帰。小川平吉、支那視察談。

*外務大臣夫婦（外務大臣夫婦） *有はつ（有筈）

三月六日 辛巳 水曜 雨。 築地水交社え午下二時より。

課業例の如し。午下二時より水交社に行。海事協会、此度慈善演劇二付、慰勞会催された。會長鍋島栄子さま、毛利安子様、御不参也。余興、山本東二郎派狂言、蟹山伏、棒しはり、長唄、伊十郎一流のくら馬、浅草八景、外、席に席画の設も有り。其内食堂開け、食事に付。此時、有地男、予記念の為画を乞れ、絹本豎もの三枚、扇面等揮毫あり。大るに盛也。六時帰。

*棒しはり（棒縛） *伊十郎一流のくら馬（伊十郎一派の鞍馬）

三月七日 壬午 木曜 晴。

課業例の如し。来客、星野錫代理二口武義、ニコ／＼倶楽部写真部より林嘉陽氏 撮影する。

三月八日 癸未 金曜 晴。

早起。墓参して帰。校外生稽古日。午下、三殿下成らせられる。夫より姉小路良子、新築成てよりはしめて御下りに相成、御知らせ二付、午下四時、五軒町え参る。良子様、御久々にて御物語いたし候。御新築立派に御出来にて、御二階もみな／＼始て拝見致し候。無趣味に奇麗に出来たり。夕食戴て帰。李子も来る。良子様ハ今晚御一泊、明朝御上りのよし也。

（三月九日～十四日、記載ナシ）

三月十五日 庚寅 金曜

校外生稽古す。午下、三殿下成らせられる。

三月十六日 辛卯 土曜

来客、愛国婦人徳富迪、十年記念の歌願る。

三月十七日 壬辰 日曜 雨。

来客、神津邦太郎。

三月十八日 癸巳 月曜 彼岸の入。晴。
来客、石山すま子、婦人画報記者。

三月十九日 甲午 火曜 晴。
朝、三殿下成らせられる。

三月二十日 乙未 火曜 晴。
課業例の如し。

三月二十一日 丙申 木曜 春季皇霊祭。晴。
午下二時より橋岡催し夜能をみる。

三月二十二日 丁酉 金曜 晴。
校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。春季祖先祭執行す。墓参して帰。御すもしの御
供養する。朝、卒業生及職員一同撮影す。

三月二十三日 戊戌 土曜 晴。
朝より揮毫もの、終日。来客、江守歌子。渡辺重石丸先生喜の字祝賀会二付、反もの、松
魚を祝ふ。
*反もの(反物)

三月二十四日 己亥 日曜 晴。彼岸中、一滴の雨もなく、珍らしき彼岸也。
朝四時起。六時出門。五年生塾生連て、七時廿分の汽車にて大磯酒井伯別邸二行。九時廿
八分大磯着。酒井伯奥方、御子様かたも停車場迄御迎二入らせられて、御別邸ニ参る。暫
時休憩して、小磯の砂山松原にて松露拾ひする。おもしろし。予ハ大磯ははしめて参り、
酒井様より甘丁余もありと云。予ハ車にて、外みな徒歩する。天気極上々、松露見附たる
嬉しき、悦こはしき。砂山の上に薄へり敷物にて、松原のかけに海をひかへて、風光尤壮
快。御弁当、其外御叮嚀なる御もてなしにて恐れ入たり。ポーフ取、実に沢山くにて一
反風呂敷に一はい。又松原にて土筆摘、つくしの沢山なる、大合利と一反風呂敷に満々て、
実におもしろさたとへなし。生徒の悦一方ならぬ。ともて取尽されぬ程にて、又もとの砂
山にて食事して、酒井邸ニ帰り、六時二分の汽車にて帰。

大磯の浪より高き声ハして松露見付し時の嬉しさ
*悦こはしき(悦ばしき) *薄へり敷物(薄縁敷物) *かけ(陰) *ポーフ取(防風取) *
つくし(土筆) *合利(行李) *ともて(とても)

三月二十五日 庚子 月曜 晴、又雨。

来客、伊藤細君、矢部与兵衛。

三月二十六日 辛丑 火曜 晴。

朝、生徒全部着席。明日式の習礼す。本年ハ展観の書画、絹本、額面、横物、懐紙、色紙、短冊、其外数種、百点以上のみ陳列す。六百点。裁縫場ニは三枚、二枚重ものより数種陳列す。新築式場、裝飾見事也。準備悉皆成。

三月二十七日 壬寅 水曜 晴。

卒業証書授与式。午下一時、本年始て新築式場にて式執事す。生徒、父兄を招く。式次如例。卒業生甲乙数多ニ付、十人ツ、呼出し、前面に立せて壺人にて戴く。来賓演舌二回、角田氏演舌ありて盛ニ、閉会す。庭中花始開。

三月二十八日 癸卯 木曜 晴。

謝恩会、卒業生より招待。正午、習字教場にて食堂奇麗に裝飾出来、午餐会、洋食。大せいにて賑々し。畢而二階裁縫室にて余興、活人画、琴曲、長唄、悲劇、喜劇もありて、体掃場にて、西洋之極楽浄土とかや、脊景夜景、月星下二月見草、美人星の如く、白き衣に髪なておろし、いかにも天女の天下りし模様珍らしく、夕景済。来客、斎藤仁子、其嬢も。

*体掃場(体操場) 脊景(背景)

(三月廿九日〜三十一日、記載ナシ)

(四月)

四月一日 丁未 月曜

風邪にて臥。

四月二日 戊申 火曜

風邪にて臥。

四月三日 己酉 水曜 神武天皇祭。雨、終日雨。

有約、予、李子と品川宮原六之介氏ニ行。迎の馬車来る。十一時出門。所々の桜花真盛也。十二時頃、宮原氏ニ行。洋人の建たる家にてよほと古ひたれと、よく掃除も行届き、楼上応接間にて種々昔語りにて、其内食事も出来たり。下の畳座敷にて昼餐を饗せられる。皆手料理にて美味なり。此楼ハ夏ハ極めてすゝしかるへく、品川の海をひかへて眺望尤佳。午後四時迄、ゆる〜咄し尽くへくもなく、又馬車三人連にて、余興を帝劇に見る。第一、

一条大蔵卿、宗十郎よく出来たり。第二、母、つまらぬもの。第三、和洋混合、按針英人オデルと云人、お梅 森律子 奇麗て是第一とす。第四、早合点喜劇。切、ダンス。十一時済。又馬車にて帰。

四月四日 庚戌 木曜 晴。

朝五時起。七時出門。予、李子、石山氏と上野停車場に行。有約、島田信子、藤井瑞枝、志賀鉄千代、鈴江、丹羽花子、坂東錫子、松平鞆子、靖子、安田豊、森たか子、外二小芳之妹なる人と十四人連にて、八時廿分発車、十時三十分着。熊谷駅にて斎藤誠之丞夫婦をはじめ大せい御迎にて、予ての東等準備とゞのひて、車四十台ほとにて、夫より熊谷蓮生山ニ詣す。又、竹田氏の庭園をみる。熊谷土手の荒川橋を渡る。赤城おろしの風はけしくて、途中より引返して、桜雲閣三階楼に着。一瞬一望、土手の桜花七分の咲出したる、極妙々の処、昼飯を此楼上にてすませ、夫より斎藤誠之丞氏之宅ニ行。東西家よりも皆来て撰待せられ、真実によく行届て嬉し。種々余興等、子供たちの躍もあり、中々面白く。斎藤善子、御病中ながら皆々に対面を楽しみて、本日は本家かつぎ来られて大く喜悅限りなし。御叮嚀なる食事の馳走、主人苦心おもひやられたり。六時四十分之汽車にて、皆々観を尽して帰りぬ。

*東(車) *観(歓)

四月五日 辛亥 金曜 晴。

朝より来客、大坂中島政二郎娘数、入塾二付、着。毛利安子様、古稀祝賀二付、襦子車のクシヨンを祝ふ。

*襦子車(襦子車)

四月六日 壬子 土曜 雨。

始業式、朝八時より新入生一年春秋の二回にして、実に未曾有之盛会、父兄の多き、式場脇一はい満場。予訓辞あり。後、李子懇に当校之主(趣)旨をのへて、一同退散す。新入生式百余に登る。盛也と云ふへし。跡見絹江結婚二付、帛紗地大巾蓬萊山之図を祝ふ。発信 大宮智栄、岡村艶子、依田直子、池田ふさ。

四月七日 癸丑 日曜 晴。 公爵毛利邸、午下一時より。

午下一時より車にて公爵毛利邸ニ行。安子様古稀祝賀会にて、本日ハ御親戚御招待日にて、御国より元昭様を御はしめ御子さまかた、長府毛利様、清末様御夫婦、吉川様、五郎男、小早川、大村、西園寺さま御夫婦、井上馨侯、桂侯御夫婦と云御顔ふれにて、大広間ニテ囃子、養老 大村子、八島 毛利男、老松 飯田、御国光 万三郎、菊慈童 六郎、嵐山 観世鉄之丞。畢而御八ツの御合の物、後、舞台替りて、長唄四ツのなかめ、政や、五郎の舞、松年久の踊ありて、御食事中種々の余興、第一のよびものハ桂侯の越後獅子、安子さまの笠の段、

予の高砂仕舞等にて、御暇して帰、十二時。

四月八日 甲寅 月曜 晴。

課業はしめをす。来客、中村氏妻。

受信 斎藤仁子より。

四月九日 乙卯 火曜 雨。 采女町西養軒、午下。

朝、三殿下成らせられ、御稽古はしめ申上る。来客、石山吉子、大炊はや子、築井米子姪入塾。西沢好子。きよ子。午後四時半より、余、李子と同じく、跡見玉枝養女絹江と嘉山氏結婚披露会、三階にて暫時休憩。凡五十人計の来客にて、七時食堂開け食事二付、七時半、畢而帰。此夕、泰銚子より帰宅。

発信 斎藤仁子へ。

*西養軒(精養軒)

四月十日 丙辰 水曜 晴。 66 (度)。 あたゝかし。

課業例の如し。来客、坪井恭子 娘卒業の御礼に来る、西沢好子、喜代、女子日刊新聞今里茂平。

四月十一日 丁巳 木曜 晴。 寒し。

早起。江戸川の花をみる。本年ハ風なくて盛久し。もはや八重も咲出たり。予、正子と買物二行て帰。愛国婦人十周年祝の哥よみて遣す。

四月十二日 戊午 金曜 晴。 57 (度)。

校外生稽古日。午下、三殿下成らせられる。

発信 益田孝氏へ返書。

四月十三日 己未 土曜 晴。

誕生日準備にいそかし。大ゐさ二間の軍艦出来、満艦旗にて其中ニ福引の蛤を出す。

*いそかし(忙し)

四月十四日 庚申 日曜 晴。

予誕辰会、子供を呼ぶ。朝より装飾、軒毎に風船鳩をかゝけ、庭中に余興舞台をこしらへ、二間の大ゐさ軍艦満艦飾にて、午後一時より始り、余興、手しな、日本西洋こま廻し、皿廻し等、子供等大悦ひ、中入、食堂にて合のもの、サイダ済て又余興、御すもし、折詰を出す。写真撮影す。福引、四時半済。七十有余の子供たちにて無邪気に遊ひて面白く、五時全畢。

*こしらへ(拵へ) *手しな(手品)

四月十五日 辛酉 月曜 朝小雨、己而晴。
課業例の如し。

発信 宮原氏え書及小包出す。

四月十六日 壬戌 火曜 晴。 宮島宅にて同級会。

朝、三殿下成らせられる。午下一時より、予、正子と電車にて宮島氏え行。盛子同級生、本日ハさし支多くて、集る者七名、各々学校時代のはなしのみにて、琴三弦等あり、食事も済て四時帰。

四月十七日 癸亥 水曜 晴。

課業例の如し。午下、閑院宮様ニ詣し、御息所様拝謁申上、御間のもの戴く。近日、志賀県え成らせられる、(衍)に付、御暇申上る。種々御話し共申上て、五時去る。橋岡来りて稽古する。

*志賀県(滋賀県)

四月十八日 甲子 木曜 晴。 浅草本願寺、午后二時。

課業例の如し。午下早々浅草本願寺六百五十回祖師大御遠忌ニ御法主より招待ニより参拝す。東玄関もとても入事出来ず、徒歩して漸玄関ニ入る。此時東玄関より御ねり出しの時にて、御法主御両台、御連子、外僧侶五百人、児三百人、御広坐敷にて知人も多く、其内御案内にて本堂前欄干之処々にて御ねり帰りの処、雅楽舞台を連子、御法主御上りにて本堂ニ御入、御読経ニテ、此間舞楽振鉢、万歳楽、延喜楽、承和楽、四楽を拝見す。実に古楽のみやひたる古を思ひ起したり。外国人等も外二なき古雅なるもの、よく永続したきものと云。四時去ル。観世音え拝詣して帰。実ニこの人出おそろしき盛大、他力本願の基をなせし祖師の御功積、末世に至りて斯の如し。とても邪曾なその及ふ処ニあらず。

*御ねり(御■(黎十しんによう)) *御連子(御連枝) *御ねり(御■(黎十しんによう)) *連子(連枝) *みやひたる(雅たる) *御功積(御功績)

四月十九日 乙丑 金曜 晴。

朝より、泰、銚子二行。校外稽古日にて。

四月二十日 丙寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、大坂西区本田三番町廿番高原よね、其悴五郎、俵松子、大村夫人、小早川夫人、毛利元忠夫人、中村幸子、稲葉菊次郎、娘す。

四月二十一日 丁卯 日曜 晴。 歌舞妓行。三島中洲催、午下三時、星岡茶寮。
朝、散歩して帰。午前九時半より、余、李子と歌舞技に行。西川好子、喜代子招待にて終
日面白く楽し。仏の前、牛若弁慶五条橋之段、双蝶々長吉長五郎。

*歌舞伎(歌舞伎)

四月二十二日 戊辰 月曜 晴。

朝、江戸川辺散歩して帰。課業例の如し。来客、大坂美尾野忠兵衛、其娘と。

四月二十三日 己巳 火曜 晴。 午下一時三十分迄、閑院宮御殿え。

朝、散歩して帰。三殿下成らせられる。午下一時半、閑院宮ニ詣す。総裁殿下より第二等
章授与せらる。本日は地方支部長等も一何人とか功労章授与せらる。畢而御庭中ニテ茶
菓賜はる。青葉の蔭擲燭咲出て殊ニ妙也。後、御息所御前にて志賀県御台臨の御土産戴く。
小城より美喜参りて、久々に咄し合たり。夕景帰。

*擲燭(躑躅) *志賀県(滋賀県)

四月二十四日 庚午 水曜 遠足会。愛国婦人会。

朝五時起。準備。六時出門。上野七時汽車にて大宮公園ニ行。生徒全部、職員等、五百人
余、八重垣ニ行、一時間ニテ大宮ニ着。新緑之好気節、物みな奇麗也。向山にて蕨など折
て遊ぶ。氷川神社宮司中島氏訪問せられ、久々に語る。帰途、小雨。三時之汽車にて上
野四時着。皆無事、自由退散。

*気節(季節)

四月二十五日 辛未 木曜 晴。 愛国婦人会、午前十時より午後四時迄。偕行社にて茶
話会。午後二時より海事協会出頭之事。

朝、散歩して帰。十時前より九段偕行社ニ行。有功章之人ニ茶菓を出す。撰待して十二時
帰。午下二時前より海事協会ニ行。理事長男爵有地品之允、鍋島栄子、毛利安子婦人部長
の面前にて二等授与せらる。一等より七等迄ある。随分人員多し。三時畢而西村政子を問
ふ。大ゐに悦れたり。今津氏を問ふ。奥田氏子供明吾、実にたくましく男子也。已而帰。

*偕行社(偕行社)

四月二十六日 壬申 金曜 晴。

朝、泰、銚子え行。奥田照子之産子、明吾子え御祝物する。校外生稽古日。午下、三殿下
成らせられる。

四月二十七日 癸酉 土曜 晴。

課業例の如し。午下、揮毫ものす。

四月二十八日 甲戌 日曜 御殿山益田孝、大師会。午前十時より四時まで。

朝九時より益田孝氏大師会ニ会す。始、軸物より巻物類を見る。実に眼を驚かす計也。園中にて所々の茶室にて薄茶を吸む。太郎坊、多門店、山の尼寺、趣向之面白き。午餐、例の鉄鉢にて鯛、竹の子飯、しゝめ汁などにて十分とうべて、あらゆる場所ニ行。二時頃退し、岩崎家を問ふ。此日、社員園遊会にて、早苗様はしめ挙家ニ逢ひ、牡丹真盛り、眼もあやに花の間を廻りくくって、チウリツフ畑うるはし。処々方々と散歩して盆栽をみる。又、釈迦堂ニ参拝して、藤棚の下ニすもし、茶子などの饗応ありて帰る。帰途、日頃谷のつゝしをみて帰。

*吸(ママ) *しゝめ(しじみ) *とうべて(食べて) *チウリツフ(チウリツプ) *茶子(菓子) *日頃谷(日比谷) *つゝし(躑躅)

四月二十九日 乙亥 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、高松郷、其母と。此夕、泰、銚子より帰宅。来客、志賀鉄千代。

発信 依田直子え手本出す。岡田艶子え手本出す。

四月三十日 丙子 火曜 雨。 鈴木充次男充形と川村富久子長女貴美子と結婚披露、三縁亭にて。出席相断候。

朝、三殿下成らせられる。強雨はけしくて洪水となる。門内まで水来る。生徒も半日にて休業す。来客、神戸水島鉄也氏、女学世界記者永安はつ。

(五月)

五月一日 丁丑 水曜 晴。

課業例の如し。来客、橋岡。松永愛子、今朝七時死去知らせありて、直ニ寿子悔ニ行。実に何とも世の有さま無常かな。

五月二日 戊寅 木曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、大坂中島政二郎。松永愛子霊前え籠入生花白きを十二種備える。汲泉三十二号落製す。

発信 伊勢柏谷徳松え瀑布幅出す。清水連郎え表札出す。

*備える(供える)

五月三日 己卯 金曜 陰。

校外稽古する。三殿下も成らせられる。松永愛子葬送二付、木村代理にたゝす。

五月四日 庚辰 土曜 雨。

課業例の如し。大坂大樽さい女の写真着。

五月五日 辛巳 日曜 晴。 観世会。

朝八時半より、予、正子と観世会二行。石山すま子を誘ふ。

加茂 実盛 杜若 籠太鼓 小鍛冶
谷村 山科 橋岡 片山 清久

本日の能ハ殊更妙を究めたり。感心々々。

発信 房州え書、及小包もの出す。

*山科(山階) *究めたり(極めたり)

五月六日 壬午 月曜 晴。

課業例の如し。来客、婦人くらふ記者。夜、散歩して帰。陸前大原新町本正篤え絹本及椎茸箱入返却す。今津久子事、本年二月比死去いたし候由、始めてきゝ、大驚愕。

発信 信州大宮え。

*婦人くらふ(婦人倶楽部)

五月七日 癸未 火曜 晴。

朝、三殿下成らせられる。来客、荒井新子、田辺栄子。北村静 七十七、家内銀婚式之祝二付、拾単物、帯、長襦袢(一裃)を祝ふ。午下より高田新蔵氏、岩崎久弥男、田村氏を問て帰。石山基陽、赤城町六十六番地ニ転居。

発信 大坂高原え写真と書をよす。

*拾単物(ママ)物) *長襦袢(長襦袢)

五月八日 甲申 水曜 陰。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、伊藤常子。

受信 房州跡見より書至。

五月九日 乙酉 木曜 晴。

課業例の如し。閑院宮家松井氏より汲泉之事二付、石山氏え申伝えられたる事あり。校友会準備中いそかし。

*いそかし(忙し)

五月十日 丙戌 金曜 晴。 50 (度)。

第十一回校友会執行。築地精養軒ニテ。予、午前十一時より精養軒ニ行。此日会する者五百三十人也。本日を以テ第一の盛会とす。開会之挨拶する。直ニ余興に取かゝる。番組、

陸軍軍楽隊 唱歌の舞 君か代 池村赤子門弟

百面相 曲独楽 末広踊 升踊 曲芸

加々見山奥庭之場踊 西洋奇術 松上鶴 花圃新作踊

竹子 みつ子 振袖狩衣 常盤津連中 囃子

全畢而立食、退散。天気実に晴朗、一人の病人もなし。

五月十一日 丁亥 土曜 50 (度)。

朝八時より閑院宮松井氏ニ行。不在にて、おますさまニ逢て種々申置たり。それより裏松氏を問て帰。来客、五島慶太、万千代。故姉小路公知卿五十年祭、五月廿一日忌日を延して七月三日執行のよし申来る。

受信 房州跡見より。

五月十二日 戊子 日曜 陰。 50 (度)。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。午下四時頃より雨ふり出し、細雨也。夜、大雨。津田弘視、子供と来る。

五月十三日 己丑 月曜 68 (度)。

課業例の如し。昨夜の雨甚し。朝晴天にて、十時比より俄に雨降り出し、夕立の模様にて十二時比全晴。

五月十四日 庚寅 火曜 晴。

朝、散歩して帰。三殿下成らせらる。肥前小城の人(コノ文、以下記述ナシ)。予、午下上野博物館表慶ニ行、古書画をみる。実ニ国宝のもの多々、可観者あり。独ゆるくくとみて帰。帰途、不忍池畔の陳列館二種々観。畢て寒山陶器店ニ一憩して鉄鉢菓子器を得。画をかく主人、記念の額を願ひ、折々居合せたる画人田口と云、画を乞れ、額面一枚をかきて帰。夜、予、泰、久子と同じく散歩して、石山氏を問て帰。

受信 久岡あさ。

発信 岡村つや子え。

五月十五日 辛卯 水曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下五時半比、牛込新小川二丁目二丁目(一(衍))火あり。姉小路、観世、川田、あぶなしと云。直ニ見舞出す。皆近火にてまぬかれたり。十五、六軒焼る。

五月十六日 壬辰 木曜 晴。

朝、散歩して姉小路、観世見舞ふ。焼あとみて帰。課業例の如し。橋岡来る。新宮小畑勝女三年忌二付、予、李子、正子、泰、寿と西川洋食店二行、晚餐を供養する。八時過帰。
*焼あと(焼跡)

五月十七日 癸巳 金曜 晴。 73(度)。

朝とくより校外生御出にて、十時済。三殿下成らせられる。来客、毛利安子様御使長井氏、祝賀之物品持参。夜、散歩して帰。河村晴子より願出る、柳義藤長女房、習字入門。
受信 野田操より。

発信 野田氏え返書。大坂美尾のより、そら豆着。

*朝とくより(朝疾くより) *美尾の(美尾野)

五月十八日 甲午 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

五月十九日 乙未 日曜 晴。 75(度)。 午下二時より築地精養軒、宮内大臣田中光頭之賀筵。

暁一時過、本郷森川町火、風甚。朝、墓参して帰。来客、桜井照代父茂三郎。午下二時、築地精養軒に参集、宮内大臣渡辺、前田中伯古稀祝賀会執行。寄杯祝、皇族殿下御歌、宮中御会始の御式にて、二条公誂師、大原伯其他発声、厳なる御式にて一同立礼す。此式畢而二階食堂開らけたり。四百人と云。女子ハ予一人也。五時過帰。俄にあつくて、ねる単きる。

*ねる単(ネル単)

五月二十日 丙申 月曜 晴。 75(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、井上良馨夫人光子、裏松千代子、女学世界記者川崎文。本日は寄宿舍新築移転記念日二付、食堂にて寄宿生一同晚餐会、賑々し。

五月二十一日 丁酉 火曜 雨。 60(度)。 午下早々、伝馬町両大師え。

朝、散歩して、森川町岡野焼跡見て帰。三殿下成らせられる。故正二位姉小路公五十年祭日二付、祭典す。姉小路家にては本日執行之筈、何か都合二付、旧七月五日ニくり延したるよし也。午下早々、伝馬町両大師御遠忌執行、宗家信楽院殿十三回忌ニ参詣致し、御誂経、御法座にも逢て難有し。安井様の御法談、相替らす結構に候。五時帰。

五月二十二日 戊戌 水曜 雨。 雨寒して綿入羽織を被る。またさむし。

朝、墓参して帰。課業例の如し。此朝、岩浪稲子より文にて母の死去申越されて、午下早々、青山有馬様え参りて、稲子二弔詞を申、種々結構の御咄しにて、静ニ大往生をとげられし事承はる。貞の宮様、御子様にも拝謁いたし候。四時頃帰宅。来客、石山もとあき。

*石山もとあき(石山基陽)

五月二十三日 己亥 木曜 晴。

課業例の如し。佐々木侯夫人貞子葬式ニ付、木村代理す。朝、重たけ一番にて上京のよし、電報来る。霊岸島迄、正子、もと威、迎ひ二行。二時過、重たけ来る。来客、書画骨董雜誌記者出口競。

発信 御寺御所え書、及小包出す。木津綿田末次郎え。

*重たけ(重威) *もと威(基威) *重たけ(重威)

五月二十四日 庚子 金曜 晴。

朝、散歩して帰。校外生稽古日。柳房、習字入門。来客、倉島君子母富久。

五月二十五日 辛丑 土曜 晴。

五月二十六日 壬寅 日曜 晴。 午下正一時より本郷麟祥院ニテ会長東久世伯追悼会。

渡辺国武子。

朝、散歩して帰。来客、大坂吉宗耕英、母と中島嫁と三人連にて、久々面会す。

五月二十七日 癸卯 月曜 晴。 午下、閑院宮え参殿。

朝、散歩して帰。午下早々、閑院宮え参殿、御息所様御画御揮毫拝見、後、姫宮三殿下御琴拝聴す。萩岡参りて六段地いたし、御弹琴よく遊はされたり。

受信 唯専寺より、そら豆着。

五月二十八日 甲辰 火曜 晴、夜雨。

皇后宮地久節ニ付敬意を表する為休業、例の如し。予、正子と三越、松屋え行て帰。予、重たけ、石山氏と本郷座楽天会ニ行。只々笑ひくたひれたり。又涙もありて面白く、十一時帰。

*重たけ(重威)

五月二十九日 乙巳 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、大坂吉宗耕英と其母、中島之妻、參觀願ふ。夜、散歩して帰。

五月三十日 丙午 木曜 晴。

昨夜、雨ふる。朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、石井健吾氏を問ふ。まよ子初産女子をもうけたる二付其悦ひにて、初子大に悦はれて、暫時にして帰。帰途、渡辺重石丸先生を問ふ。久々に御夫婦の悦ひ一方ならず。先生も本年八十七歳にて、至而御壮健なから、全頭白髪、可驚。古き知己に逢て旧を語るほど楽しき事ハなしとて、帰るを惜まれたり。夜十二時半、地震随分長し。

五月三十一日 丁未 金曜 陰。

校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。来客、元宮様に勤め(ママ) 田尻みき女。

(六月)

六月一日 戊申 土曜 朝雨、十時頃より晴。雅楽局え参る事。

課業例の如し。午下二時より、予、李子と雅楽稽古所二行、音楽演習をみる。久々に舞樂の古雅なる、実に味ふべきもの也。舞樂畢而欧州樂二成。新氣一転して洋樂も実ニ堪能なる伶人たちの、かく迄ニはと思ひたり。三十人の合奏、よくも調ふたり。可感也。観客充滿せり。以前八十人たらずの処、今日の盛なる古樂を聞く耳も出来たり。可悦。五時過畢。帰途、渡辺重石丸先生を問ふ。先生喜ひ甚し。先生の精神より成りたる固本策新刊を戴く。談語に日も暮かゝるにて、御暇申て帰。

*新氣一転(心機一転)

六月二日 己酉 日曜 晴。

本日は、泰、其外洋画家の白馬会の継続の心もちにや、今年光風会なるものを上野竹の台ニ開会するに付、本日よりすへてのもの車にて持込、陳列の準備にいそかし。来客、安藤与惣次郎、其娘基子と御礼に来る。

受信 益田孝氏の大師会、書画編製申込。一部拾円位。

発信 土井氏、大坂跡見え。

*心もち(心持) *いそかし(忙し)

六月三日 庚戌 月曜 晴。

課業例の如し。午下二時より上野竹の台ニ開設なりたる実業日本社の全国小学生徒成績品陳列館二行。本日は皇太子殿下行啓あらせられ、御叮嚀に御覽ニにて三時還啓。奉送申上而後、成績品縦覧す。よくもかく迄に夥しく出品物いく万と云、中々見尽しかたく、四時帰。帰途津田氏を問て帰。夜、散歩して帰。

*御覽ニに(衍)

六月四日 辛亥 火曜 晴。

朝、氷川神社ニ参詣して帰。三殿下成らせられる。藤中瑞枝より生干物着。大坂木津屋吉兵衛、其両親之喜の字祝物着。

*藤中瑞枝(藤井瑞枝)

六月五日 壬子 水曜 雨。

課業例の如し。夜、月清し。

六月六日 癸丑 木曜 晴。

課業例の如し。来客、大坂難波年梅寛之助後家エン、始て面会して種々昔を談す。午下早々、高輪北白川宮ニ詣す。御息所、若宮殿下にも拝謁仰せ付られ、種々御品物御目録拝領す。御前にて種々御はなし共同ひて退出。毛利公安子様伺ひて、御咄しに時を移し、五時帰。発信 藤井瑞枝え。

六月七日 甲寅 金曜 晴。

朝四時半、重威帰房す。予、散歩して帰。校外生、三殿下、成らせられる。来客、東京毎日新聞記者大竹忠太郎。

六月八日 乙卯 土曜 晴。

課業例の如し。午下一時より泉会。藤川氏、性格之講演にて面白く、来客者も多も。習字教場充滿す。

*多も(多し)

六月九日 丙辰 日曜 朝雨、后晴。

午下一時より上野竹の台光風会ニ行。小林、岡野、三宅の諸氏案内にて洋画をみる。会場すへての飾付、又格別に意匠をこらして結構なり。出品画も殊更多く、名画もやはり名の有人のは見所ありて感心す。三時、棚橋絢子刀自の祝賀会ニ会す。美濃出身者の発起にて、紀念文庫の寄附を頼まれる。度々の祝賀会にや、出席者は百人にはみてぬ。女子ハ下田歌子と予のみ也。五時帰。

六月十日 丁巳 月曜 昨夜よりの雨、已而晴。

課業例の如し。来客、和田房子。広岡房子父に面会す。

発信 大宮智栄尼え。三条様え。大口氏え。

六月十一日 戊午 火曜 入梅。雨。

朝、三殿下成らせられる。午下一時半、今般横浜石井範三氏と広岡房子の縁談齋ひて、石井健吾氏媒妁人にて結納持参にて、祝酒出す。此方よりも範三氏への結納御持参を願ふ。来客、橋田初子母。

六月十二日 己未 水曜 雨。正午より晴。
課業例の如し。

発信 歌道奨励会え紕地出す。

六月十三日 庚申 木曜 晴。
課業例の如し。

発信 木津谷吉衛え小包にて帯地及絹地一箱出す。

六月十四日 辛酉 金曜 晴。
校外生。

発信 大坂柏原え。

六月十五日 壬辰 土曜 晴。博文館廿五年祝宴、午下四時半より帝劇え。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下四時より帝劇に行。博文館大橋氏、廿五年祝宴会、さしもの場中、実に一千余人と云。第一、嬬山姥、第二、セーラス、ソングエンドダンス、第三、記念式、新太郎氏挨拶、懐旧談、大隈伯、渋沢男、大岡氏演舌、及祝辞等済て、立食。余興、新夫婦出来ない相談にて、予は帰。時十時過。本日、光風会え宮内省侍従御差遣にて、廿一品御買上の栄を得たるよし。万歳々々。

発信 国府津藤井玉枝え。

六月十六日 癸亥 日曜 晴。

朝より来客、広岡平兵衛妻なら江、黒沢綾子。奥田照子、十九日独乙え出立二付、御暇乞に来る。

受信 房州重たけより鯖生節着。

発信 房州え礼状出す。

*重たけ(重威)

六月十七日 甲子 月曜 雨。終日、雨降通し也。午下五時、紅葉館行、三条公より御招。

課業例の如し。李子、正子、新橋迄、奥田照子、小供、伯林え出発二付、見立二行。午下四時半より紅葉館二行。三条御夫婦先在。本日は久々にて御親戚御親睦の為ニ御招致したる迄也と申されたり。閑院宮御夫婦、鷹司御夫婦、山内侯御夫婦、南部夫婦、土方伯、山

尾子、藪子、平松子、三条男夫人、河嗜子二人、予、松井氏、尾崎夫婦と也、鄭重なる御もてなしにて余興も数番あり。御客の芸もありて面白く、十一時帰。
発信 大岡智栄え。岡村艶子え。柏原たねえ。

*小供(子供) *河嗜子(河鱒子)

六月十八日 乙丑 火曜 晴。

朝、散歩して帰。三殿下成らせられる。

六月十九日 丙寅 水曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下四時より財団法人常務会員角田氏、増田氏、橋本氏、原氏御出にて相談決し、愈残りの建築ニ懸る事に相成候。八時食事済て帰られる。

六月二十日 丁卯 木曜 晴。夜二入、雨甚し。

朝八時半より上野停車場二行。閑院宮両殿下、青森、秋田え赤十字及愛国婦人会總會ニ御台臨ニ付、御見立申上る。夫より浅草観音え参詣して、上の竹の台光風会に親して展覧ものを見て帰。午下早々、三条家二行、過日の御礼申上る。夫より大谷伯素謡会ニ出席、五派之素謡、二時始る。天鼓、小原御幸、杜若、源氏供養、其外にて八番。畢而、仕舞、大小等にて十時帰。

*親して(ママ) *上の(上野)

六月二十一日 戊辰 金曜 朝、豪雨、午前十時頃より雨霽たり。

校外生五人教授す。午下、三殿下成らせられる。

受信 岐阜浅野栄次郎、幅、箱着。石川県輪崎漆器盆着。

*輪崎(輪島)

六月二十二日 己巳 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。父の廿三年忌、光園寺にて執行す。予、泰夫婦、正子、李子、靖子、早苗、石山氏。参詣して帰。夜、散歩して帰。

*光園寺(光円寺)

六月二十三日 庚午 日曜 晴。

朝、散歩して、姉小路を問て帰。電報着、重たけ一番にて上京、三時着。来客(記述ナシ)。夜、散歩して帰。

受信 山形県岡村尚子より桜桃二箱着。

*重たけ(重威)

六月二十四日 辛未 月曜 晴。 78 (度)。
課業例の如し。揮毫ものす。来客、吉野朝計。

六月二十五日 壬申 火曜 雨。
朝、三殿下成らせられる。揮毫ものす。夜、散歩して帰。

六月二十六日 癸酉 水曜
朝、小雨、已而晴。課業例の如し。来客、時事新報山口圀太郎。夜、散歩して帰。

六月二十七日 甲戌 木曜 晴。朝、小雨、已而晴。夜、雨甚。
朝、高田慎蔵氏を問ふ。大磯二行て不在。岩崎久弥男を問ふ。内に取込事ありて不逢而帰。
発信 信州大宮尼え。岡村艶子え。依田直子え。

六月二十八日 乙亥 金曜 晴。
校外生稽古日。午下、三殿下成らせられる。夜、散歩して帰。
発信 渡辺先生え書をよす。

六月二十九日 丙子 土曜 雨。
課業例の如し。

六月三十日 丁丑 日曜 晴。夜大雨。 午下五時より築地精養軒行、増田義一、大隈伯
之催し。

昨夜、新聞にて三条信浄院様御病氣危篤のよしにて、今朝八時車をはせて橋場え御見舞二
行。かく今と申事もなく御枕辺二行て、種々御咄しも申上、御精神御慥二御見受られ、先々
安心致し帰。帰途小松宮様え参りて、頼子殿下に拝謁、御満足さまにてはらく御閑話申
上候帰。午下三時より玉枝宅え行、絹枝の病氣を問て、築地精養軒え行。今、余興、三津
五郎、勘弥の連獅子の始り、白頭、赤頭にて見事二舞ふたり。終て食堂開かれて、始めて
実業日本社の催しでないと云事をしり、大橋、伊藤氏の結婚披露と分りて、何となく其滑
稽言ふ計なし。夫より実業の日本社の席に出候。是余興の説経左衛門と云、昔の錫杖を鳴
らしてうたふものゝ進化したる也。終て食事に付。主賓のはなし面白く、八時過帰。時、
雨ふり雷鳴。

*三条信浄院様(三条信受院様) *はせて(馳せて) *説経左衛門(説教祭文)

(七月)

七月一日 戊寅 月曜 晴。

朝墓参して帰。課業例の如し。本日より半日授業とす。朝七時半始。来客、日本古流美術画編纂所主幹桑島嶺南。午下五時頃、俄然大雷、近辺に落雷したかと思ふ。雨盆を覆すと云、忽にして門前川をなす。暫時にして止。

七月二日 己卯 火曜 晴。午下五時頃より雨ふり出し、夜通しふる。

朝五時、津田より電話にて、今暁一時頃より産氣付たり。直に来てくれと云。正子行。今朝、重威、李子、京都え出発、八時之汽車にて。予、必、此五十年祭ニは参列之覚悟致したれと身体すくれず、李子代理、万里小路智子同道也。津田より、九時三十分男子**妍婉**す。

午下より伊藤幹一氏を問ふ。御嫁と幹一氏の妹ニなる人に逢て、過日宴会之滑稽を演したる事を伸て謝す。それハ此方よりハ御招待ハ出しましたる筈にて、人手まかせ故落ましたるかも知れずとて、先々安心々々致し候。帰途、津田え行、**妍婉**之子供をみる。実に愛治郎生写しと云、立派なる子にて喜悦限りなく、栄子もなにの申分もなく、大く安心ニ候。受信 夜十時頃、李子より電報、七時八分無事着。

***妍婉**(分婉) ***妍婉**(分婉)

七月三日 庚辰 水曜 晴雨定まらず。

課業例の如し。来客、時事新報記者山口圀太郎、文政議會之談話する。女子師範学校舎幹富田、々、(記載ナシ)兩人、学校參觀ニ来る。

受信 六月廿八日附、上海にて、奥田照子より。

七月四日 辛巳 木曜

昨夜よりの雨甚し。朝十時頃より晴たり。課業例の如し。津田え産や見舞すもしを遣す。本日、姉小路公知卿五十年祭、宅にて執行す。子供等も招く。御供養おすもしにて。受信 李子より端書着。

***産や**(産屋)

七月五日 壬午 金曜 朝五時より雨降出し、はけしく降、十時頃より晴たり。

早起。散歩して帰。校外生稽古日。午下、三殿下成らせられる。贈正二位姉小路公知卿五十年祭日、京都清浄華院ニテ執行す。泰朋友六人、来り会す。宇佐美敬、画の入門す。

七月六日 癸未 土曜

課業例の如し。重威より電報、今夜夜行にて帰。

七月七日 甲申 日曜 晴。
朝九時廿分新橋着にて重たけ帰。

午下式時過、突然文部省より叙勲ニ相成ニ付、礼服用、即刻出頭申来る。李子、正子も留守にて、然し三時迄ニは出頭可致と申出す。三時前、文部省ニ出る。文部大臣長谷場君をはしめ、次官其外十人計たち並て、大臣より多年功勞より勲六等宝冠章を授けられたり。仰かしこみて退出す。帰宅之時、新聞記者待受居たり。七、八名に逢ふ。夜も来る。此記事八日の分。

津田産児命名す、弘文ト。予、津田を問ふ。

*重たけ(重威)

七月八日 乙酉 月曜 晴、夜雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。賀客続々来る。電報祝詞飛来る。大谷光瑩伯、御短冊御持参にて大悦。終日来客ニ接す。

七月九日 丙戌 火曜 晴。

朝、三殿下成らせられる。十時より宮内省へ参り、御礼申上る。閑院宮様へ参殿。御息所拝謁、叙勲の御礼申上る。実に御満足さまにて、御二度頂戴して、長谷川氏、島田氏、角田氏ニ行、御礼申て帰。李子、京都より夜十時帰。

七月十日 丁亥 水曜 晴。

予ハ休業す。朝より総理大臣、文部大臣官邸ニ御礼申上る。已而帰。来客続々あり。

*文部大臣(文部大臣)

七月十一日 戊子 木曜 小雨。

散歩して帰。課業例の如し。

七月十二日 己丑 金曜 晴。

朝、散歩して帰。校外生、又午下、三殿下成らせられる。又、宇佐美敬、画の稽古する。午下四時より寄宿舎にて角田氏、島田氏、増田氏、其外発起人婦人たち寄合にて、祝賀会ニ付、当時之暑氣にてはとて、先秋迄延はず事、夫よりは米貨騰貴之際、小石川貧民ニ施米致した方かよろしく、と云案も出て、先区長君を願ひて其相談に及、極細民困難なる者一千七百名と云、一軒ニ付二升あてと云事に決して、印刷文句もみな島田、角田両君ニ願ひ決定して、十時済。斎藤仁子一泊。

*米貨騰貴(米価騰貴)

七月十三日 庚寅 土曜 細雨、曇。88 (度)。

朝、氷川神社ニ参詣して帰。生徒一同、体操場に集め、中島先生、校長叙勲ニ付祝賀之事も決定之件、委細ニ談話致され、一同感泣す。

*体操場(体操場)

七月十四日 辛卯 日曜 晴。

校友会より、此度施米之義すり物印刷出来、書記をもやとひ、校友会員え出す。愈明日より福分米取扱ふ事。

*義(儀) *やとひ(雇ひ)

七月十五日 壬辰 月曜 晴。88 (度)。

学校休業。

(七月十六日〜十八日、記載ナシ)

七月十九日 丙申 金曜 晴。86 (度)。

校外生稽古日。午下、宮三殿下成らせられる。横浜ハーブル・フレント嬢、画の入門す。

七月二十日 丁酉 土曜 本日、土用入。晴。86 (度)。

朝、散歩して帰。八時頃より万里小路伯を問ふ。暫時閑談して帰。帰途、新田氏を問て帰。弘、今夕九時汽車にて清国へ修学旅行出立す。来客、斯民家庭編輯主任近江匡男。

午下二時、号外にて聖上陛下御大患。

此報を得て、驚愕おく能はず。先御命乞を天地の神明に祈る。

七月二十一日 戊戌 日曜 晴。土用二郎、天如焼。午下俄二雨、雷鳴あり。已而止。86 (度)。

早起。白山神社ニ参詣して帰。来客、永代静雄。聖上陛下御容態、御体温四十度三分、御呼吸廿八、御脈八十四至を開す。本日は午前少しく御亢奮の御状態にて、御睡眠少なく、時々嘔々譫語を発せらる。御腹部の鼓脹ハ、瓦斯の排泄時々あらせらるゝも尚少く、御増加の御傾あらせられる。其他ハ今朝と格別御変りあらせられす伺ひ奉ると云。実に恐惶惜く能はず。予、御命乞の為、天御中主神、高御産美神、神御産美神、天照太神ニ祈願して、精進して昼食を廃し、朝夕の二時とす。一万の念仏をとなふ。

*開す(算す) *惜く(措く) *高御産美神(皇産霊神) *神御産美神(皇産霊神) *天照太神(天照大神)

七月二十二日 己亥 月曜 曇。午下五時頃より雨降出したり。夜九時前、雷鳴。83 (度)。

朝七時、車にて棚橋絢子と同じく宮内省に参内、天機奉伺申上て退出す。本日授業納めにて、式場にて教員、生徒に誥別す。来客、桐島銚子、谷春江。
号外、御容態御経過、稍々御良好。御体温三十八度八分。御腹部の鼓張減少し、御呼吸も非常に御楽に成らせられて、今朝午前五時三十分は御熟睡中にあらせられる。
此報を承りて、実に生返りたる心地して稍安心。

*鼓張(誇張)

七月二十三日 庚子 火曜 雨。

朝五時、雨中白山ニ参詣して帰。揮毫ものす。

号外。今暁の御容態、御体温三十八度六分、御呼吸三十八回、御脈八十四至、御安眠少なくして、稍々御興奮の傾あらせらるゝも、別ニ御異状無き様承はる。少しく安心。

来客、大坂中島井上君。

七月二十四日 辛丑 水曜 70(度)。

早起。白山神社ニ拝す。

七月二十五日 壬寅 木曜 70(度)。冷氣甚し。

早起。白山神社ニ参拝す。来客、午前十時半、秋元八重子さま御出にて、画の揮毫遊はして、御二度も上げて、午下二時過御帰りに相成たり。

七月二十六日 癸卯 金曜 晴。88(度)。

早起。白山ニ参拝して帰。天保九如之凶、落製す。

号外、御病状依然たり。廿六日午前六時拝診、御体温卅八度一分、御脈百十至、御呼吸三十回。

七月二十七日 甲辰 土曜 晴。89(度)。

早起。白山ニ参拝して帰。九時、車をはせ二人引にて、第一、高輪北白川宮ニ御機嫌伺ひ、竹田宮、朝香宮、三条家、麻布御殿、東伏見宮ニ詣し、良君様ニ拝謁して、志賀氏を問ふ。

昼食して東宮御所ニ御機嫌伺ひて、万里小路幸子様ニ御目ニ懸りて、御所東御車寄にて天機奉伺申上て、御内儀姉小路局にて暫時にして退出す、五時過。叙勲の有かたさ、御所を始め奉り御門、御玄関迄車乗ながら参内出来て、もつたいなき極み也。本日、御容体少しく御良好、御舌も御滋ひ遊されたりとて、各殿下にもはしめて御笑顔もみえたりと。

*はせ(馳せ) *良君様(周君様) *もつたいなき(勿体なき)

七月二十八日 乙巳 日曜 晴。88(度)。

早起。白山ニ参拝して帰。

聖上陛下御容態、第三号外。御病勢御増進、御注射申上く。極めて御重態なり。御体温三十九度八分、御脈百廿至、呼吸四十五、御全体軽度之御痙攣を發せられ、御苦悶の状にあらせられ、カンフル及食塩の皮下注射を差上たる所、猶御重体の御状態にあらせられる。東宮殿下を御始、各皇族御一統其外御詰切、華族も一切会館ニ詰切て退出せず、御模様を伺ひ奉る。

明朝汽船にて子供等房州行之処、右ニ付断然やめる。夜十二時、少し臥床に入る。予、悲鳴を上たるに、正子驚て来る。此時十二時半、予、太魂神に祈願する。神体あらはれてしきりに御頭を振り遊はされて、とてもと。かなしみに堪たり。万里伯、酒井伯、今後号外あれハ結構と申されたれと、号外なし。

*脈(脈)

七月二十九日 丙午 月曜 朝、少雨ありて、又晴。88(度)。

今廿九日午前六時、岡、青山、三浦拝診、御体温三十八度一分、御脈凡百廿至にして結代多く、御呼吸御困難、其数四十八回、今晚以来御昏睡の御状態に陥らせられ、益御危険の御模様にあらせられる。

本日午後〇時五十分、宮内省発表。廿九日正午、岡、青山をはじめ各医の拝診、御体温三十七度五分、御脈細微にして御心臓の鼓動大凡百四十六を算し、御呼吸ハ前回通り御困難の御状態にあらせられ、御四肢の末端暗紫色にして、益々御危険の御状態に在らせられる。朝より烏しきりに悲鳴す。

七月三十日 丁未 火曜 曇、晴。88(度)。

午前一時過、李子来りて、只今万里伯よりしらせにて、天皇陛下には、午前零時四十三分崩御あらせらる。みなく一時二起出て慟哭す。直ニ御霊前をこしらへ、灯明を、御洗米、御水を上て、予をはじめ一同参拝す。寄宿の人々をも、下婢迄も参拝す。この中日間のうちにかゝる御事とは、いかなる御因縁ぞや。泣血号呼のうち、愈宮内省官報来る。引続、皇室典範第十条、天皇崩する時は皇嗣即踐祚し祖宗の神器を受く。此明文に拠り皇太子嘉仁親王殿下踐祚あらせらる。又、これにて声を限りと泣きけふ。勿にして御代替らせ給ふ。

きこしめす時こそこゝとおもひしにたのみはかなき神にほとけに

*こしらへ(拵へ) *勿にして(忽にして)

七月三十一日 戊申 水曜 晴。88(度)。

改元大正元年と定められる。大行天皇御霊に参拝す。此日、棚橋参朝同道申来る。十時之処、遅延に相成、正午早々棚橋一郎子も同道にて、東御車寄にて本日は其服にてハ御請にならすと云。和田倉拓植務所にて団体の御請ありて済。朝香宮、麻布内親王、竹田宮、北白川宮、東宮御所ニ参る。本日ハ御弔詞ならば御請なし。両親王殿え参る。又、閑院宮え御弔詞申上て、赤城の石山氏を問ふ。すま子と共に涙なからかたり合ふ。暫時にして帰。

今上天皇踐祉あらせられ候二付、御朝見の御式あらせられる。此午下五時頃より大雨ふりしきる。又、水難かとあやふみたるに、川の工事出来たれは大ゐに安心。

弘、長崎より帰着、午下四時。泰、箱根より帰着、午下十二時。

血を流す涙の雨のふりそゞく文月三十日の民のなげきに

*和田倉拓植務所(和田倉拓殖務省) *踐祉(踐祉) *あやふみ(危ぶみ)

(八月)

八月一日 己酉 木曜 晴。87(度)。

早起。学校式場掃除、幕を張り、正面に背に向、屏風を立て、御靈幣を備え、御水、御洗米、御灯明を上ケ、午前八時、職員、生徒参集す。校長、大行天皇崩御あらせられ、国民一般のかなしみの極み也と云。参拝の仕方習礼す。それより前の屏風を取て、御靈前に校長参拝す。職員、生徒一同参拝。畢て、中島徳蔵氏、先帝の御高德、偉大の功績、偉大の变革を遂行せられたる御事より、今上天皇の御位を踐み、統治の大権を継承し給ふ事など、誠意尽してのへられたり。東京の生徒不参なく参集したり。

*備え(供え)

八月二日 庚戌 金曜 晴。93(度)。

早起。散歩して帰。揮毫ものす。

八月三日 辛亥 土曜 午下早々、驟雨甚し。

早起。散歩して帰。来客、長谷川千賀子。正午より歯痛にて大ゐ(に)困る。夜もいたみ甚し。井深氏を招きて手当をしてもらひ、漸眠に就く。午前七時頃より大雷雨にて、三ヶ所に落雷ありたりとか。

八月四日 壬子 月曜 驟雨、雷鳴、已而晴。大ゐにすゞし。78(度)。

朝より中村齒科医に行て治療を受て帰。

*治療(治療)

八月五日 癸丑 月曜 曇。66(度)。 愛国婦人会本部にて遥拝式執行。午下九時より十一時迄。

朝、散歩して帰、九時より愛国婦人会本部に参集す。楼上にて遥拝式、玉串をさゞけ奉る。それより御所御内儀え参る。姉小路良子様丁度御すへり中にて御目にかゝり、御互に涙ながら御詞辞申上、御大患より御崩御迄の御模様伺ひて、涕泣の外無之候。其内御奥え御参りに相成、今夜御はた附にめさるゝ御式也と承る。御二度いたゞきて退る。訃音、茂木惣

兵衛義、七月三十一日午後九時死去、八月八日午後三時、元町増徳院にて葬儀相営由。

*さゝけ(捧げ) *義(儀)

八月六日 甲寅 火曜 曇。 68 (度)。

朝、散歩して帰。予、李子と同道、九時四十分汽車にて横浜茂木本店に行。弔詞を伸て帰。電車にて三谷原氏を問ふ。此時、佐々木信繩氏居られて初対面。古しへより折を得ず、漸面会す。種々面白き咄し共有て、昼餐を共にす。午下梅林の秋草を見て、山上の建築落成、実に善美を極めたり。下村観山、壁面揮毫中、面会す。此時石川照子も居りて、久々にて挙家一同種々なる咄し有て、本宅に帰。前池一面荷花真盛、奇香妙甚。晚餐を喫して、佐々木氏と同道、電車にて時間おそく成て、九時後の汽車にて帰。

*佐々木信繩(佐々木信綱)

八月七日 乙卯 水曜 立秋。晴。 82 (度)。

朝、散歩して帰、揮毫ものす。

八月八日 丙辰 木曜 晴。 87 (度)。

朝、散歩して姉小路を問て帰。終日揮毫す。横浜茂木惣兵衛氏会葬、代理石山基威。

八月九日 丁巳 金曜 晴。 87 (度)。

朝、散歩して帰。揮毫す。閑院宮様より可参様仰せられる。

八月十日 戊午 土曜 晴。 83 (度)。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。

八月十一日 己未 日曜 晴。 85 (度)。

朝、散歩して裏松子を問て帰。朝四時過より、泰、正子、寿子、弘、上野辺え行て帰。

八月十二日 庚申 月曜 晴。 85 (度)。

朝、散歩して帰、揮毫ものす。午下二時より閑院宮様ニ詣す。両殿下を御はしめ、若様、姫宮様御一同様え拜謁、先帝の御事共同奉りて、泣涕限りなし。桃山御見分之御咄しも伺ひ、風光絶景のよし也。さて御頼みに相成候事ハ、百重さまの願にて、牛と猿の二幅対、御息所様より何にても姫宮様御三方一幅ツ、是非頼み度と仰られる。承り候。御合のもの御側にて戴く。已にして退く。

八月十三日 辛酉 火曜 晴。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。今朝、李子、民女連て渡房す。桂公、内大臣、侍従長に任

せられる。

八月十四日 壬戌 水曜 87 (度)。
朝、散歩して帰、揮毫ものす。午下六時頃より俄二雷鳴、実に驚きたり。其内大雨降しきる。何れえか落雷したり。忽にして空晴たり。

八月十五日 癸亥 木曜 晴。 85 (度)。
朝、墓参して帰、揮毫、蘆に鯉魚、青柳二鯉魚落成す。昨日の雷、土井邸内に落雷、片山氏家屋一軒焼失す。また処々にも落雷ありと。
受信 柏原種より半襟着。

八月十六日 甲子 金曜 晴。 88 (度)。
朝、散歩して帰。揮毫ものす。

八月十七日 乙丑 土曜 晴。 90 (度)。
朝、散歩して帰。八時より千駄ヶ谷徳川頼倫侯別邸二行。九時、十時之間二弘道会員着席、庭中に祭場を設ケ、會長徳川達孝伯、奉悼文謹読、畢而遥拜、会員一同拝礼す。夫よりもとの座に附て、先帝の御聖徳より諒闇中の心得などの御演舌あり。次ニ哀悼文、次ニ池田謙蔵氏、稲のはなしなど有て、式全畢。それより田中久右衛門氏を問ふ。細君二逢て帰。代々木大炊氏を問ふ。晨子さま、何くれとまめやかによく取もちて、昼飯を饗せらる。此時家政さま御退出にて、御大患後はしめて面会致し、誠に御悼みの余り衰弱甚し。かしこき御あたりの事共伺て、たゞ涙のみ。石山氏を大炊師前氏に問ふ。暫時にして三時過帰。

*徳川頼倫侯(徳川頼倫侯)

八月十八日 丙寅 日曜 晴。 88 (度)。
朝、散歩して帰。揮毫す。午下胸くるしくて吐を催し、沢山あけたり。武藤氏来診。暑にあたりたるに、食物でいたいたしたるのみ也。夜、井深氏も来診す。さしたる事なし。

*あたり(中り) *ていたい(停滞)

八月十九日 丁卯 月曜 晴。 83 (度)。
終日臥。来客、大村梅子さま、小早川式子様、横浜石川細君、得不逢。

八月二十日 戊辰 火曜 晴。 83 (度)。
朝、散歩して帰。揮毫ものす。書至、支那西沢清子。
発信 大宮智栄尼え。岡村艶子え。森本ま寿え。

八月二十一日 己巳 水曜 晴。 85 (度)。
朝、散歩して帰。揮毫ものす。李子、房州より電報にて、一番汽船にて帰る。雨宮と房子
兩人迎に行。夕景無事着。万里家に着したる故也。

八月二十二日 庚午 木曜 曇。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。正子、鎌倉津田の旅館光明館二行。二泊のつもり也。予、
腸の工合あしく、井深氏診★(言+察)を乞ふ。養生す。

*診★(言+察) (診察)

八月二十三日 辛未 金曜 雨。午下、天晴てむし暑く。 86 (度)。

朝、雨中散歩して帰。揮毫ものす。夕景、飼犬何に驚きたるか、ひとく悲鳴を上て病犬の
如くあれまはりて、すのこの下には入たれと、それよりとんと見当らず、大るに心配す。
学校事務所、棟上する。

*あれ(荒れ) *すのこ(簀の子) *は入たれ (這入たれ)

八月二十四日 壬申 土曜 晴。 86 (度)。

齒痛二付、散歩せず。揮毫ものす。昨夜より飼犬行衛不明にて、一同心配す。裏の川に落
て近所の人たすけ上て、今朝無事に帰る。たすけ人に謝礼す。正子、夕景、鎌くらより帰
る。

*鎌くら (鎌倉)

八月二十五日 癸酉 日曜 晴。 88 (度)。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。

八月二十六日 甲戌 月曜 晴。 90 (度)。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。午下、玉枝、長野吉井文堂娘と其悴と三人連にて来る。始
めて面会す。悴ハ、当時木津藤田東助方ニ食客たりと云。今晚汽車にて帰坂之由也。

八月二十七日 乙亥 火曜 晴。 85 (度)。

朝、散歩して日比谷公園二行て帰。揮毫ものす。津田一同、昨日鎌倉より帰る。弘たか、
終日遊ひに來に。帝国絵画新報主筆吉岡班嶺え二尺巾豎物鯉魚之図をカス。二、三日にて
返却之約也。

受信 木津美尾野より木綿三疋着。

*弘たか(弘孝) *來に(る) *カス(貸ス)

八月二十八日 丙子 水曜
訃音、仁科駒女、昨廿七日正午死去。

(八月二十九日、記載ナシ)

八月三十日 戊寅 金曜 晴。86(度)。
朝、散歩して帰。揮毫ものす。阿部基安、姉小路延子、津田弘精。京都より色紙式百枚着。
午下三時より閑院宮様に詣し、御息所の君を御はしめ姫宮様方に拝謁す。十三日夜、御大
葬奉送には、御庭にて拝観の様仰せられ、一泊のつもりにてとて、有かたき事也。

八月三十一日 己卯 土曜 時々驟雨あり。今上天皇天長節なれと、御喪中にて御祝受
させられず。

朝、散歩して帰。朝食後、車にて中村齒医師に行、治療す。午下草々、橋場小松宮様に詣
し、頼子殿下に拝謁し、種々御物語申上て、二時退る。それより三条信受院様の御病を伺
ふ。先々御平らに入らせられる。福井医師にも逢て、御容体を伺ふ。二、三日前より牛乳、
ソツプ少しツ、召上られ、一月比より御あを向のみにて、御寐帰りも御出来にならず、し
かし御側にて咄しをしてもらふか一番楽しみと仰せられ、種々古き新らしき御はなし申上、
きつう御とめに成て、夕食戴て帰、七時也。

*午下草々(午下早々) *御あを向(御仰向) *御寐帰り(御寐返り)

(九月)

九月一日 庚辰 日曜 雨。朝より雨、終日降通したり。暴風気味あり。86(度)。

本日より色紙書はしめ、三十枚。まちに待たる雨にて、みくまりの神の奇瑞あらたなり。
有難しとも有かたし。本日は二百十日と云、裏の川も広く深く成りたる為、今日の終日の
大雨も水の愁ひなく有かたし。方々より水見舞来る。

*みくまりの神(水分の神)

九月二日 辛巳 月曜 晴。90(度)。

朝、散歩して帰。画揮毫す。来客、姉小路伯、時事新報磯村。
発信 京都山本彦兵衛え色紙代五拾四円出す。

九月三日 壬午 火曜 晴。82(度)。

朝、散歩して帰。終日揮毫ものす。来客、郷朝江。

(九月四日〜六日、記載ナシ)

九月七日 丙戌 土曜 雨。
散歩して帰。終日揮毫ものす。

九月八日 丁亥 日曜 雨。 66 (度)。

朝、散歩して帰。終日揮毫ものす。頓に冷気にてふらねるに綿入羽織といふ有さま。閑院宮様より、十三日は三時迄に参殿の事。道路往来止となる。

*ふらねる(フランネル)

九月九日 戊子 月曜 雨。 69 (度)。

雨にて散歩せず。色紙廿枚揮毫す。

発信 佐々木盛吉妻も、枝え見舞文出す。愛国婦人会え奉葬、断り出す。

九月十日 己丑 火曜 雨。晴雨定らず。 82 (度)。

朝、散歩して帰。授業始。職員、生徒、七時半出校。式場にて校長、今上天皇の御詔勅拝読す。李子、十三日奉送遥式之心得を申聞せて式畢。来客、流山秋元松子母、大坂中島氏。閑院宮様より、城中根に御邸内にて奉送許せられる。毛利美佐子様御使林繁介来、叙勲御祝金廿五円持参し来る。

九月十一日 庚寅 水曜 雨。 70 (度)。

雨中、散歩して帰。七時半、授業はしむ。

九月十二日 辛卯 木曜 晴。 73 (度)。

名代にて、伏見桃山え御出輩也。

朝はしめて空晴わたりて心地よし。七時より車にて新橋え行、愛国婦人会、特志看護婦人会会長はじめ、会員大勢御見送りの人々にて、閑院宮妃殿下、東伏見宮妃殿下、御機嫌よく桃山御陵え御出発あらせられる。予、石山基陽さまの御暇乞に行、すま子としはらく談話して帰。来客、石山まよ子。宮城前を拝み奉りて、いよ、今宵一夜と成らせられたり。真神の根こしをいく千本となく立並へて、其間二大★(竹十冊)両側六本ツ、電気柱には白黒の切を養附て、にび色、甘子色の長き旗をたて、是両側の御道筋青山迄此通りと云、実に前代未曾有の神々しき神代のさまを見る心地して、また涙のみ也。

*御出輩(御出輩) *根こし(根堀) *大★(竹十冊)(大簞) *養附て(巻附て) *にび色(鈍色) *甘子色(柑子色)

九月十三日 壬辰 金曜 晴。

明治天皇御大葬御式日也。午餐すませて、直ニ閑院宮殿ニ参る。予、李子と也。途中通行厳敷、通行切符なければ不通と云、風来にてハ一人も不通と云。御奉送御客、三条治子さま、千代子さま、公照さま、篤子、末子さま、松平高子さま、池田奥方、御嬢二人さまにて、午下六時、宮様御参内、三姫宮様、御内着の御喪服めされて同しく御参内なる。七時頃より御馬場よりの奉送、第一の御場所にて、学習院女学部生徒、愛国婦人会、婦人教育会、何々会にて式千人と云。九時、先供来りて御行列、静肅なる奉送人、見渡す限り幾方と云。眼をふさきてみれば老人も人なきか如し。遠く楽隊聞え来て、兵隊の多き、楽行過て聞えぬ時分、また楽隊の声聞え来て、御旗、日月の御はた、又立もの種々、愈、雅楽隊の樂の音聞え来て、副牛の次、牛御轎車のきしる音には、誰も涙をすゝる音のみ、取留めたきも御轎車は遠く御影もなくなりて、奉送の人々にて、予ハ此人を見るの大せい、始めて也。十一時行過たり。御殿にては、御洋食晚餐いたゞき、十二時にまた御食事いたゞき、十二時弔匏にて黙拜二分間、一時頃御客皆々御帰りに相成る。予、李子、一泊。

*御内着(袴) *弔匏(弔匏)

九月十四日 癸巳 土曜 晴。青山は雨と云事にて、失望やます。

七時起。天気晴朗、難有事たとへん方なし。此時号外、乃木大将夫妻詢死とアリ。見て驚く事一方ならず。如何に忠義といへど教育の大任をいたゞきて、何といたしたる事ならむ。絶叫したり。朝飯いたゞきて退く。宮城前を拝して帰る。来客、金子細君。

*乃木大将(乃木大正) *詢死(殉死)

九月十五日 甲午 日曜 雨。

雨中、散歩して帰。来客、婦人之友岸本柳、千田勇子。

九月十六日 乙未 月曜 本日午後正一時より、青松寺本堂にて、先帝の七々日御追悼法要執行。

朝、散歩して帰。課業例の如し。正午早々、芝青松寺に行。明治天皇大追悼会、薫風会にて執行。会長堀田正恒、伴子、其外会員出席、本堂にて導師北野氏、僧侶十八人にて読経、畢而一同焼香、後、北野氏法話聴聞、久々に殊ニ有かたく候。済て乃木大将家ニ弔詞申入ル。大将たちに御目ニかゝり、寺内様ハ、乃木大将の志の通りを仕とげたる也と申されたり。靈前に参拝す。御夫婦の御靈柩を並へて、太刀、短刀も飾られたり。泣涕不止。参拝して帰。

*仕とげ(仕遂げ)

九月十七日 丙申 火曜 晴。

課業例の如し。午下四時頃より雨ふり出したり。先帝御五十日祭御執行あらせられる。来客、報知新聞記者野島諭。

発信 房州跡見、木津若間、大口氏え。

九月十八日 丁酉 水曜

死去、門馬氏甥、十四日 門野三男六三、沢宣元女元子、乃木大将御夫婦をはじめ、山島久光、天野。

*甥(をひ)

(九月十九日〜二十六日、記載ナシ)

九月二十七日 丙午 金曜

大坂一心寺但間すゑ、廿六日死去之由申来る。弔詞と香料貳円を贈ル。

九月三十日 己酉 月曜

訃音、谷春江父七太郎、廿八日死。十月二日吉祥寺葬儀執事、午下二時。

(十月)

十月一日 庚戌 火曜 晴。

朝、散歩して帰。三殿下成らせられる。本日より袷着初る。岩浪稲子え夜具新調して、赤十字え見舞出す。

十月二日 辛亥 水曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。徳富猪一郎子より電話にて午下来ると云。菅医学博士夫人と入江大九郎氏と来る。御子息の縁段の件也。谷春江父葬式二会す、木村代理。

*縁段(縁談)

十月三日 壬子 木曜 朝雨。晴雨不定。

朝五時起。正子、七時出発、八時廿分汽車にて京都桃山に参拝す。赤十字岩浪稲子、今朝は又我身に帰りたりとて食事もいたしたるよし、申来る。松永安彦え弔詞出す。

受信 大坂但間元七より満中院、帛紗二枚、蠟燭着。

*満中院(満中陰)

十月四日 癸丑 金曜 曇。曇、九時頃より一天晴わたりて、七十八度。

校外生稽古日、六人。三殿下成らせられる。夜、散歩して帰。

十月五日 甲寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業如例。来客、京都御寺御所祖疏、久々面会して先達而阿部男より御もらいに成る邦子さまの事、実に涙なからに残念なる咄し承り、大聖寺の住職として得度も出来、三歳の児女にして得度ハ破格のよし、死児の為には実に此上なき結構といはざるを得んと存候。暫く咄して帰られる。李子も面会す。

十月六日 乙卯 日曜 晴。

朝、散歩して帰。八時より品川増田享氏を問ふ。不在にて、御子息太郎氏に面会して学校経営事二付、三井家の寄附を願ふ事を依頼す。岩崎家二行、御家内玉川え御出にて不在。夫より高輪南町茂木松子を問ふ。お宗さまも久々にて大ゐに喜はれ、何かと談話中、新築之立派なる奥座敷、品海を座ながら見渡し、実に絶景也。先帝陛下之御祭場を設けられ、御祭壇も裝飾結構にて、其隣に乃木大将御夫婦も祭られて、其外別座敷ニ主人惣兵衛様の靈前えもみな参拝す。実ニ感佩に不堪候。已而帰。

*増田享(増田孝) *御祭壇(御祭壇)

十月七日 丙辰 月曜 晴。

朝、散歩して津田氏を問て帰。課業例の如し。来客、愛国婦人記者徳富迪、家庭の花記者井出百合。午下四時頃、穂積八束氏死去ニ付、悔二行。御夫人にも御目に懸り、実ニ火急なる御模様にて残念限りなし。国家の為惜むべき方也。

十月八日 丁巳 火曜 晴。

朝、散歩して帰。三殿下成らせられる。午下四時より靈南坂志賀氏を問ふ。それより江副久満子死去ニ付、悔み二行。昨年より病にかゝりたるよし、全く肝臓岳致命性となる。御子供衆もよく臨終の間ニ合て、先々結構々々、廉蔵氏ハ長く七、八年も飼ひならしたる猿にかまれて入院致されたと、御家内の急馬とにて実に御気の毒なる次第也。夜八時過帰。

発信 松平岳子、依田氏、岡村氏え。

*肝臓岳(肝臓癌) *致命性(致命傷) *急馬(急場)

十月九日 戊午 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。正午頃より微恙にて臥。穂積氏葬式ニ会す、木村氏代理。

十月十日 己未 木曜 晴。

微恙にて起臥しつゝ。朝の新聞に、文展出品泰ノ画合格したる由出て、大ゐに安心々々。江副氏葬に会す、石山氏代理。

十月十一日 庚申 金曜 晴。

朝、散歩。校外生稽古日。来客、徳富迪氏。

十月十二日 辛酉 土曜 陰。

朝、散歩して帰。課業例の如し。泉会執行。島田三郎君講演、現代婦人の覚悟にて、先帝の御盛徳及乃木大将御夫婦の言行二付ての御講話にて、聴衆みな感泣する。さすがは島田君と歎称の外無之候。一時より三時二渡る。来客、比志島雪子夫人紹介にて池田駒蔵氏。正子帰京二付、泰、寿子、靖子、早苗、基威、夜七時新橋迄迎ひに行。九時過無事帰京、種々咄しにて十二時臥。

十月十三日 壬戌 日曜 晴。

朝八時より車をはせて品川増田孝氏を問ふ。あやにく昨日より東京二行れ不在にて、執事に逢て咄して帰。帰途、浜松町停車場にて、皇太后宮桃山行啓奉送申上る。夫より東伏見宮様え参り、御機嫌伺ひて帰る。来客、乃木夫人言行録編輯部平田勝成。

*あやにく(生憎)

十月十四日 癸亥 月曜 晴。

朝、散歩して帰、課業例の如し。来客、石山吉子、津田栄、弘文。

十月十五日 甲子 火曜 晴。68(度)。好天気にて珍らしき六十八度。

朝、墓参して帰。三殿下成らせられる。来客、弘道訪問記者田中久。朝四時、泰、初獵に出かける。李子、赤十字病院二稲子を訪ふ。先熱度も下り、本日にて三日間同様にて気分もよく、先々こちら物に成たるよし、大く安心々々。正子、石山陽さまえ行、寒けたちて帰臥。

十月十六日 乙丑 水曜 晴。70(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、大炊御門お駒さま、井出百合子、岡崎忠子さま。受信 木津唯専寺より松たけ一籠着、書至。発信 大坂寺田え。

十月十七日 丙寅 木曜 神嘗祭。晴。

此早朝、基威氏来り、文展出品野路ゆく人、宮内省御買上の栄を得たり。一同夢二夢みる心地して悦ぶ。朝八時より拓植博覧会二行。

(十月十八日、記載ナシ)

十月十九日 戊辰 土曜

受信 依田氏より文及松茸着。

十月二十日 己巳 日曜

発信 茂木松子え小包手本。依田直子え。

(十月二十一日〜三十日、記載ナシ)

十月三十一日 庚辰 木曜

茂木保平氏、俄然死去之由、島田氏より承る。

(十一月)

十一月一日 辛巳 金曜 晴。

校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。午下三時過より雨。始而綿入着す。

十一月二日 壬午 土曜 晴。

朝八時半参集、九時、生徒一同式場に着席。中島先生、先帝御追慕之為、御盛徳之講話あり。一同謹聴す。来客、桐島銚子、画を願に。午下五時より、予、李子と清、供に連て横浜二行。茂木氏悔二行。お蝶様、茂子様、御一統のなげき、さも有へし。実に身もよも消行心地したり。李子ハ夜とぎの筈にて、予は九時十五分の汽車にて帰。

*なげき(歎き)

十一月三日 癸未 日曜 天長節。晴。

天晴朗、天長節日和と云。毎もならは市中之賑ひ、外務大臣夜会之仕度にて、今時分は今自分ハと夫のみ申つゝけ、おもひかけなきこの諒闇とは、いたみかなしむのみ也。李子、夕景横浜より帰。終日揮毫ものす。弘、帰宅す。猿の首革をはめて外の猿台に放つ。猿悦んで上下して居る内に、鎖切れてサア大変、庭の樹々に登りて、とてもとらへる事出来ず。一同大さわき、辛苦して、トウ々々日暮て如何とも致し方なくて。

はしめて綿入を着る。

発信 新潟本間氏より梨子着。

*毎も(いつも) *今自分ハ(今時分ハ)

十一月四日 甲申 月曜 雨。

課業例の如し。雨、已而晴。猿はもはや死したるかとして、夜明より方々さかしたるに、応接の庭の樹に居たり。中に(ママ)とらへ得る事出来ず。漸だましてとらへ得たり。先々

安心々々。此夜、泰、旅より帰宅す。正子、寿子、病氣にて臥。

*さかし(捜し)

十一月五日 乙酉 火曜 晴。

朝雨、已而晴。三殿下成らせられる。夜、散歩して帰。

十一月六日 丙戌 水曜 雨。 姉小路良子、高倉寿子、桃山出發、午下七時。

課業例の如し。先帝百日祭。午下五時半より新橋え高倉様、姉小路良子様、其外内侍、命婦すへて廿七名、桃山參拝御出發を送る。七時也。

発信 保田竹子え。本間直藏え。

十一月七日 丁亥 木曜 晴。

朝八時より、予、石山氏と文展二行、日本画、洋画とも親しく見る。日本画の精神の入たる驚へく、此氣精にて行は画の發展もと大に悦たり。洋画ハ是までに比して少し負色ありと思ふ。夫より拓植博覽会に行。人数之多きに困雜一方ならず。然し、樺太、台湾(以下、記述ナシ)

*困雜(混雜)

十一月八日 戊子 金曜

校外稽古日、朝より。午下、三殿下成らせられる。穂積八束君之四十日發御案内二付、菓子一折、書添て喪中御見舞出す。

受信 房州跡見よりさんま着。

発信 松本中尉え。

*四十日發(四十日祭) *さんま(秋刀魚)

十一月九日 己丑 土曜 晴。 本日午後五時、帝国ホテルえ志賀鈴江披露会。

朝、課業例の如し。午下四時半より、予、桃子と同じく帝国ホテルに行。志賀鈴江、矢田氏と結婚披露会ニ会す。重昂氏、ハワイ及南米国よりあらゆるもの、持帰られたる珍らしき物、陳列して見せられ、五百余种と云。縦覧して後、食堂開かれて、宴なかは比、角田氏之挨拶あり。本田子爵、新夫婦の万歳々々。九時散したり。

*なかは(半は) *本田子爵(本多子爵)

十一月十日 庚寅 日曜 晴。

朝、散歩して帰。終日揮毫ものす。夜、又散歩す。

発信 若松佐々木え、房州重威え。

十一月十一日 辛卯 月曜 晴。

朝七時より車を飛して、品川増田孝氏を問ふ。あや、箱根別荘に行れて不在、不逢而帰。帰途、茂木氏を問ふ。暫時にして帰。来客、大炊晨子、早苗連て帰らる。

十一月十二日 壬辰 火曜 晴。

本日は、東京湾にて大観艦式御執行二付、陛下行幸在らせられる。実に天晴朗、風なく、飛行器及飛行船も成功なるへく。終日揮毫す。来客、石山すま子。此朝六時、堀田和子、女子嬪婉の御知らせあり。

* 嬪婉(分婉)

十一月十三日 癸巳 水曜 晴、夜雨。 穂積八束君四十日祭、上野精養軒え午後五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下四時半より上野精養軒に行。穂積八束氏四十日祭執行。下ノ広間ニ祭壇設け有て、参拝、玉串を捧げる。七時半比食堂開け、二階大広間にて来会者二百八十人と云、実に大勢也。始、陳重先生之挨拶、演舌、次ニ子息重威之演舌有て皆涙を流したり。第三、学士会代表者、畢而、来客側代表者浜尾新男の挨拶あり。畢而八時過。

* 祭壇(祭壇)

十一月十四日 甲午 木曜 晴。 酒井伯より招かれる。

朝、散歩して帰。課業例の如し。終日揮毫ものす。

十一月十五日 乙未 金曜 晴。 48(度)。

校外稽古日、此日より松平鞆子さまも御入学ニ相成たり。午下、三宮殿下成らせられる。来客、夜、井出百合子。

受信 工藤鷹之助より林檎一箱着。

十一月十六日 丙申 土曜 晴。 48(度)。

朝より、軸もの箱書付三箇揮毫す。午下早々、予、石山、津田栄子、子供三人と酒井伯の庭園參觀す。伯爵、長々難病全く御快復ニ付、その記念の温室、其外菊花盆栽陳列、動物類沢山、実に見事也。伯爵之御健康にて大悦、自ら温室御案内下されて、種々御病気の御咄しも有たり。子供等大悦。已而帰。帰途、穂積氏え過日之御礼に行。此早朝、泰、千葉二行。大橋省吾え軸箱三箇渡す。

* 御健康(御健康)

十一月十七日 丁酉 日曜 晴。

朝、霜深し。叙勲二付御祝返し書面認る。印サツ博文館ニ五百枚誂る。終日、猿揮毫す。弘、学習院より川越地方大演習ニ出る。午下、正子、寿子、日本橋迎え出掛る。予、夜、散歩して帰。来客、夜、井出百合子、御寺御所にての写真借す。

受信 呉愛宕町二四三多田操治より広島産硯箱着。

受信 熊谷齋藤仁子、柿着。

*印サツ(印刷) *誂る(誂る) *借す(貸す)

十一月十八日 戊戌 月曜 晴。53(度)。

課業例の如し。終日揮毫す。夜、散歩して帰。博文館印刷もの五百枚出来す。

*印刷もの(印刷もの)

十一月十九日 己亥 火曜 雨。

朝、三殿下成らせられる。

十一月二十日 庚子 水曜 雨。

課業例の如し。午下、閑院宮様え詣して、御息所様ニ拝謁する。御庭の紅葉、本年ハ殊によく染出て、秋色絶佳なり。小田原御別邸のみかん、よく成熟したりとて、沢山に賜はる。風味もあまく結構なり。牛、猿の二服揮毫ものさし上る。大御悦さま也。

*二服(二幅)

十一月二十一日 辛丑 木曜 陰。先、天も陰ながら雨も降らすして、結構々々。夜雨。

課業例の如し。午下より堀田伯を訪ふ。御出産の御子さまを見上る。先、正倫様ニよく御移りにて、誠によく御発育にて御めてたさ限りなし。和子さまも大々御元氣、大丈夫の御様子也。暫して帰。津田え寄。子供等大悦にて夕景帰る。此日、比叡艦進水式にて、陛下御臨幸あらせられる。二万七千トンとかの大艦にて、速に無事進水式の出来る様、天神地神に御守護願上たり。今夕刊にて無事式滞なく済たるよしにて、大に安心々々。

十一月二十二日 壬寅 金曜 雨。

朝より雨なから、校外生みな御出にて賑々敷候。午下、三殿下成らせられる。卯佐美も。

*卯佐美(宇佐美)

十一月二十三日 癸卯 土曜 新嘗祭。雨。

終日、揮毫ものす。

十一月二十四日 甲辰 日曜 晴。

朝九時より、予、正子、早苗と同じく觀世滋章二百回忌追悼能をみる。一番、菊慈童山科、俊寛、橋岡、葵上、清久、安宅、片山、望月、木下にて、久々にてみる。面白し。六時過済て帰。森律子来る。

*山科(山階)

十一月二十五日 乙巳 月曜 晴。

課業例の如し。夜、散歩して帰。若松、佐々木、静より柿一箱着。発信 佐々木え。茂木、松子え。大宮、智栄、保田、竹え。岡村、艶子え。

(十一月二十六日、二十七日、記載ナシ)

十一月二十八日 戊申 木曜 晴。

昼早々、浅草本願寺御報恩講ニ参詣する。御法話二座聴聞して御経ニ逢而帰。帰途、觀世音に参詣して帰。

十一月二十九日 己酉 金曜 晴。

校外生稽古する。石山もと威氏移転する、高田馬場え。

*石山もと威(石山基威)

十一月三十日 庚戌 土曜 晴。45(度)。

閑院宮、大将御昇進あらせられ二付、松魚一箱献上。叙勲記念品献上。佐々木、桃枝、渡米二付、書及錢別もの送る。

(十二月)

十二月一日 辛亥 日曜 晴。午下一時三十分より海事協会記念日。

午下早々、閑院宮様(二)詣し、両殿下に拝謁す。今般大将に御隆任あらせられる、(二)衍)に付、恐悦申上る。時、三殿下成らせられ、二時頃迄御咄し申上て退出す。直に海事協会二行。第七回記念日、諒暗二付余興もなく、席画揮毫等あり。予も沢山席画す。後、食事済て帰。腸あしく夜五度瀉す。

*諒暗(諒闇)

十二月二日 壬子 月曜 晴。

予、微恙にて臥。

十二月三日 癸丑 火曜 晴。
朝、三殿下成らせられる。

十二月四日 甲寅 水曜 晴。
課業例の如し。

十二月五日 乙卯 木曜 晴。
予、微恙にて臥。学校上棟式執行。大工、仕事司百人計にて盛大なる事也。夕景、木遣にて帰る。諒暗中故、極質素にと云。

*仕事司(仕事師) *諒暗(諒闇)

十二月六日 丙辰 金曜 晴。
予、微恙ニ付、校外生休業。午下、三殿下成らせられる。泰、銚子え旅行す。

十二月七日 丁巳 土曜 晴。 佐々木桃枝、渡米。
課業例の如し。高津裁縫教員、始而属託す。

十二月八日 戊午 日曜
朝、中村元嘉氏、時事新報記者三井氏、姉小路伯、大炊家政氏。紀井土井氏より、みかん一箱着。

*紀井(紀伊)

十二月九日 己未 月曜 晴。
課業例の如し。来客、橋高子、猿医、梶山、石山基陽氏。

十二月十日 庚申 火曜 晴。
朝、三殿下成らせられる。来客、高橋氏細君、宮崎冬子、井深氏。長谷川喬氏、今朝死去のよし、仁井田より電話にて知らせる。

受信 大坂美尾のより菓子着。

発信 天下茶や寺田、田中え鮭、するめ出す。跡見暉一え小包出す。

*美尾の(美尾野) *天下茶や(天下茶屋)

十二月十一日 辛酉 水曜 晴。
課業例の如し。李子、長谷川氏ニ悔ニ行。

十二月十二日 壬戌 木曜

課業例の如し。来客、大炊御門師前、小林鍾吉、梶山氏。

十二月十三日 癸亥 金曜 晴。

校外生稽古日。午下、三殿下も成らせられる。田村氏一週忌二付、御香料千疋を備る。長谷川氏葬式に木村氏代理会葬す。来客、横浜原氏使小池清。

*一週忌(二周忌) *備る(供る)

十二月十四日 甲子 土曜 晴。

課業例の如し。石山氏配もの本日にて済。堀田伯使。

受信 岡村尚子より花瓶一箇箱入着。幸野せき子。

十二月十五日 乙丑 日曜 雨。

昨夜より大雨、終日降つゝ。来客、野呂山氏、歳末に。便利堂知野氏より絵はかき百枚。

発信 岡村尚子え書をよす。猪熊浅麻呂え。

*絵はかき(絵端書)

十二月十六日 丙寅 月曜 晴。

課業例の如し。来客、岡崎忠子、横浜貿易新報小高吉三郎、梶正利、時事新報三井定次、井出百合子。

受信 房州より落花生着。

発信 大宮智栄、房州重たけえ。岡村艶子、大坂美尾のえ。左右田氏、山尾氏。

*重たけ(重威) *美尾の(美尾野)

十二月十七日 丁卯 火曜 晴。

朝、三殿下成らせられる。午下、玉枝氏を問ふ。春三氏にも逢ふ。出生の子供も壮健らしく、月足らすとも思はれず。暫時咄して帰。中西屋え行、展観ものを見而、買物して帰。十時、泰、銚子より帰。

十二月十八日 戊辰 水曜 晴、夜大雨。

課業如例。午下一時より山田梅子病氣見舞二行たる処、昨日死去のよしにて大に驚、御主人秀雄様二面会して御病状も承り、御母堂も御なけきにて、梅子さま二御暇乞する。実にあはれ、はかなき事限りなし。暫して帰り、赤十字に岩浪稲子を問ふ。大に快方にて、北白川宮お幸さまも御出にて、病人とも暫く咄して、当年中には退院も出来得る事と大悦二候。四時過帰。

*御なけき(御歎き)

十二月十九日 己巳 木曜 曇。

朝、大雨止。来客、都市教育編輯藤岡真一郎、中井幸、田辺栄子、長岡愛子 子供と入学願。

十二月二十日 庚午 金曜 晴。

朝、泰、銚子二行。校外生、御稽古をさめ。

発信 保田竹子え。

十二月二十一日 辛未 土曜 曇。

課業昼迄にて済。午下一時より泉会納会。会員続々来集。寄宿舍にて食堂を。活動写真の余興にて八番あり。珍らしく面白し。二時より三時中入にて御汁粉を出す。后、又四時迄にて。畢、食事、鯛飯、御汁進上にて、あたゝかく、魚かしまつを折拵、香のもの小田原町ベツタラ、みかん等にて、大賑々敷。外来者百廿余人。五時頃より雨降出したり。困雑す。

*魚かしまつを折拵(魚河岸よつを折詰) *困雑(混雑)

十二月二十二日 壬申 日曜 冬至。雨。小雨。

朝より歳暮配りものにて、いそかし。来客、桜井茂三郎。

発信 茂木松子え。大宮智栄え。

*いそかし(忙し)

十二月二十三日 癸酉 月曜 晴。十五夜月清し。

本日を以て閉校式とす。生徒ハ各教場ガラス窓ふき拂除して、試験もの渡す。午下一時、一同退散す。予、午下、志賀氏二行、松野るい子病気を見舞ふ。格別すい弱もなく、はなしもよくして居られ、急な事もなさそふに思ふ。いと間乞して帰。来客、津田栄子、父と。受信 柏原種より。

*ふき拂除(ふき掃除) *いと間(暇)

十二月二十四日 甲戌 火曜 晴。月如昼。

朝より歳末配り物にて多忙。来客、茂木栄子、梶山氏。午下二時より御内儀ニ参る。良子様お目にかゝり、種々閑談す。皇太后宮より縞縮緬一反、御守、御袖入拝領。四時頃帰。靖子、早苗、帰宅す。

十二月二十五日 乙亥 水曜 晴。

朝より、かた付物する。午下、揮毫ものす。来客、鳥尾千勢子、津田よし子。弘、帰宅す。

十二月二十六日 丙子 木曜 晴。

朝より揮毫ものす。

受信 尾花町長井利右衛門、画出す。半田、新美、直、画出す。

十二月二十七日 丁丑 金曜 曇。

朝より揮毫ものす。所々方々え小包もの出す。

発信 大坂赤壁氏、画軸物出す。柏原種子え書をよす。波多野花涯えも同しく帛紗。山形県佐藤権兵衛え。御寺御所え包物、文と。

十二月二十八日 戊寅 土曜 雨。八時頃より雪降り出したり。

朝より揮毫ものす。済てわか室大掃除する。弘、乗馬にて石神井村え行、夜ずば濡、からだ迄通る(り)て帰。八時半、泰、銚子より帰。

*わか室(我が室) *通る(通り)

十二月二十九日 己卯 日曜 雨。

夜よりの雪、益甚しく、牡丹雪、夜二入てもなほ不止、積る事三、四寸、初雪には珍らし。豊年の兆かと喜ひたり。

受信 台湾小畑照子より、からすみ、竜眼肉、生姿の砂糖つけ、同、岩本いさより筍、胡瓜、茄子、唐からし、いんけん着。

発信 小畑え返書。大宮智栄え。岩本いさえ。朝鮮久岡え。岡むら艶子え。吉野辰巳え。

*からすみ(■子) *生姿(生姜) *唐からし(唐辛子) *いんけん(隠元) *岡むら艶子(岡村艶子)

十二月三十日 庚辰 月曜

受信 長井利右衛門より、のし梅二箱。

発信 下総西村浜え返事。長野巢山氏え返書。愛知角田定得え。遠藤え別製ねる一反、書共。唯専寺え別製ねる一反。美尾のえ、のし梅一罐、海苔十帖入。若間え海苔十帖入。

*ねる(ネル) *ねる(ネル) *美尾の(美尾野)

(十二月三十一日、記載ナシ)